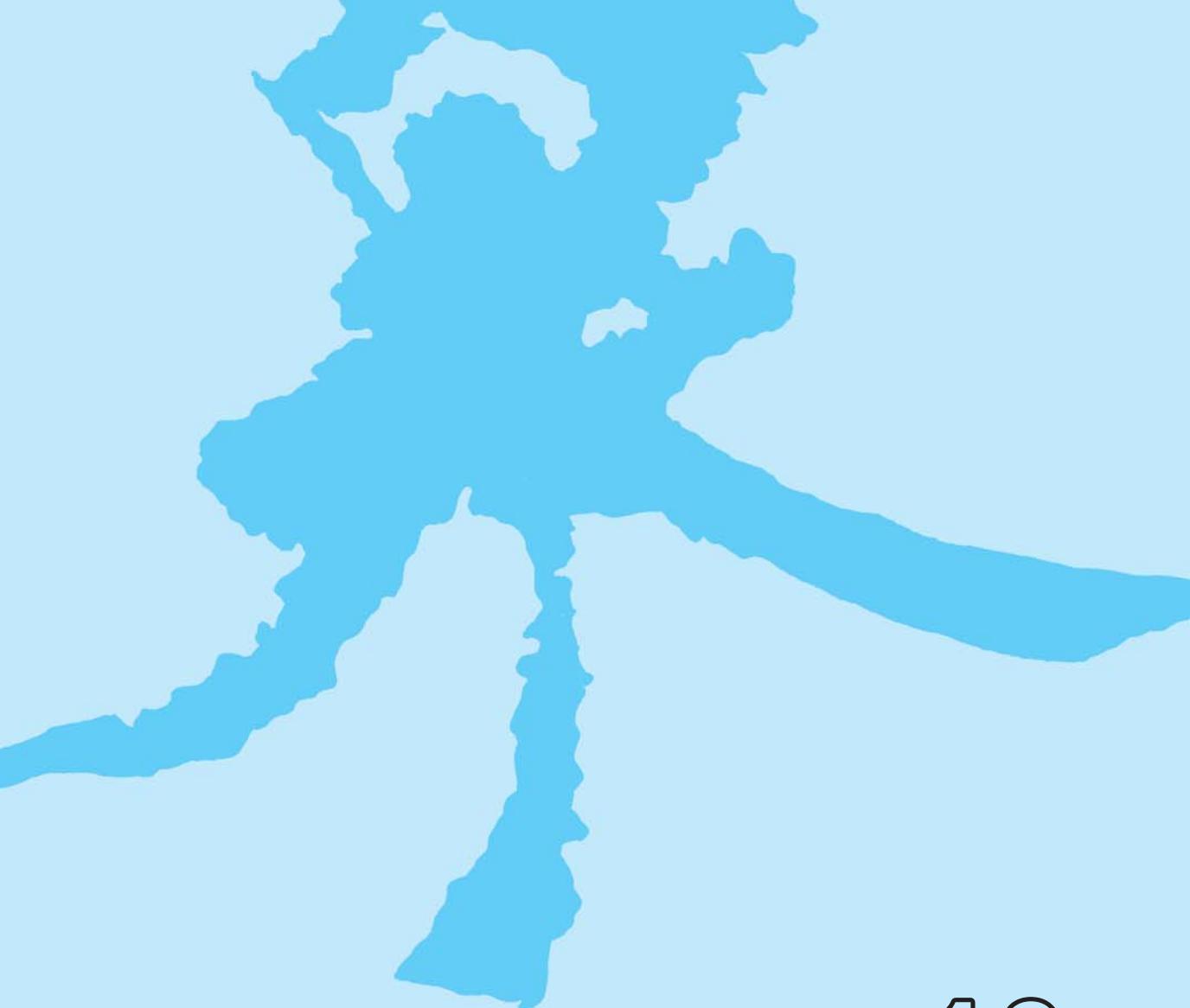


平成二十八年十月一日発行（毎月一回一日）
書象 第六十四卷 第十号 通巻七三三号

書象



日本書道芸術協会

2016-10

卷頭言

私と書象誌

副事務局長 柳澤玄嶽

書作とは、書美の追究です。私自身、その何たるかが解けないまま書作し続けるこの頃です。世には、いつまでながめても飽きない書があり、心落ち着く書があり、時には勇気づけられる書があります。それらの書には、豊かなドラマが秘められ、人を魅了する何かがあるのです。

幼い時に書象誌で出会った信山先生の書「谷神不死」は、私がはじめて「書」というものにショックを受け、感動した作品です、まだ筆を執って間も無い腕白小僧の時を思い出すと、その意味すら解らないまま、しかしその一字一字から醸し出す幽玄さ、怖さを感じました。その後先生の代表作「堅勁」「絶妙」「深蔵」などなどが誌上に載ると、見様見真似で右払い・左払い・逆筆など、信山流の真似事をしたことを想い出します。

「谷神不死」は先生五十五歳の作品です。私といえば、還暦にならんとする今でもその書作の指針さえ掴めないまま、悶々と時を費やすばかりです。

生前先生は、事あるごとに「常に古典に立ち返る。」ことを、ご自身の書論の中で、仰っていました。私もたない古典学習ではあります、書作に迷った時（迷わない時は無い）、古典を傍らに置き臨書することで、迷いを払拭しようとします。そのとき古典に何を求めるのか。それは三千年の歴史の中で培われた形体の美であり、筆という道具によつて織りなされる、深さに向かう「力」が抽象化された線の美だと思います。

一九六二年 上條信山先生書「谷神不死」

信山流は、古典を凝縮させ、先生の精神、感情、肉体を合した深遠な書芸術です。

書象誌は、五十年を越える歳月、常に私の傍らに有り、支えとなってきた。自分の書とは何か、試みを繰り返し幾許かの書作に失敗しご批評を受ける中、自分の書を見直すバイブルとして私を導いています。

いつか、書が人となり、見るに耐えるものとなることを願いつつ、筆を持つ日々が続きます。





畫者高橋君諱

10月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

これは石に刻られた文字の拓本です。白い文字の部分を墨書してください。

P.17に書法解説を掲載しました。

・画数の少ない「廿・二・八」は小さめに、「年」をたて長にしてバランスをとる。

貞……上部を比較的長めに書く。

貞

東觀廿

一年

東觀廿

廿……画数が少なく小さくなるがやや太めに。

年

年……上下の文字の中 心と比較しながら縦画の位置を決めて伸びやかに。

10月20日必着
出品券を貼付

貞

行書は筆脈が重要。流れを意識してリズム良く書く。

遠：概形は三角形。二本の縦画は一直線上に重ならないように。しんにようは一部を長めに。

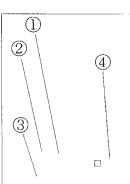


深…さんずいは余白を多く、旁は密度をだして疎密を意識する。

仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

上條信山先生書

・仮名特有の返し書きによる構成(①から書き始める)。



・大胆な渴筆を主体と
して、し（志）で墨
をつける。

・「さ」「の」「れ」は
二回登場する。それ
ぞれの書き分けにも
注意。

「さび（日）」



「し（志）」



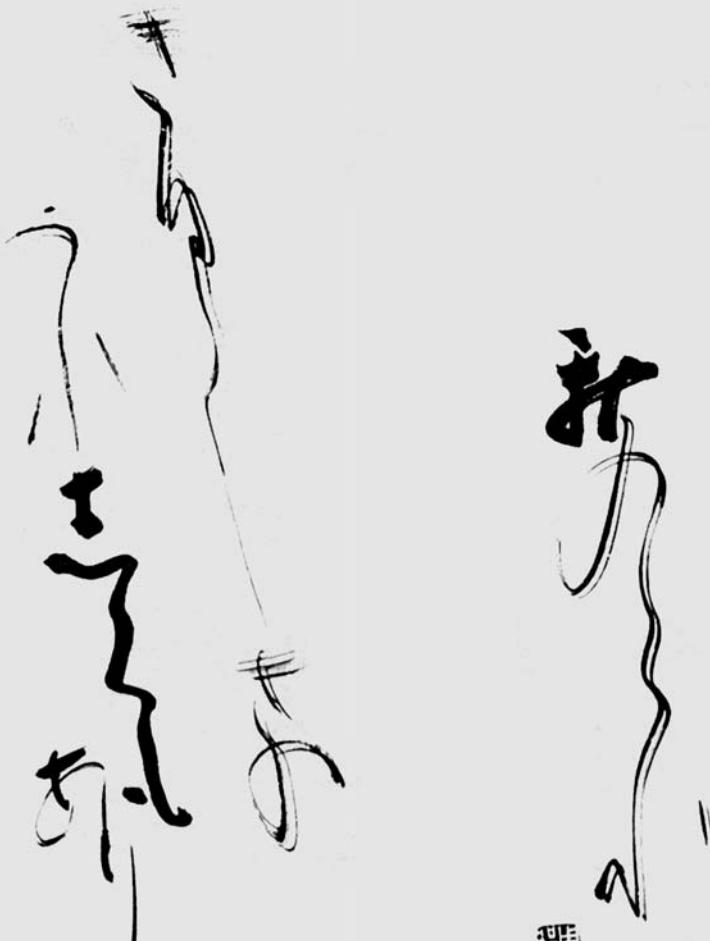
「秋」



さび（日）しさのうれし（志）くもあり秋のくれ

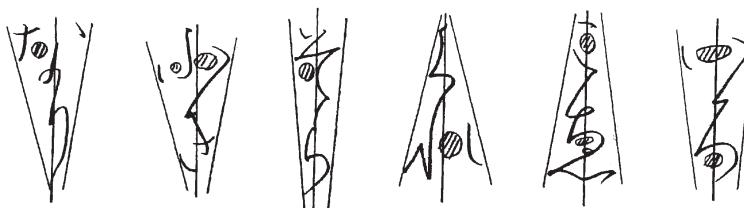
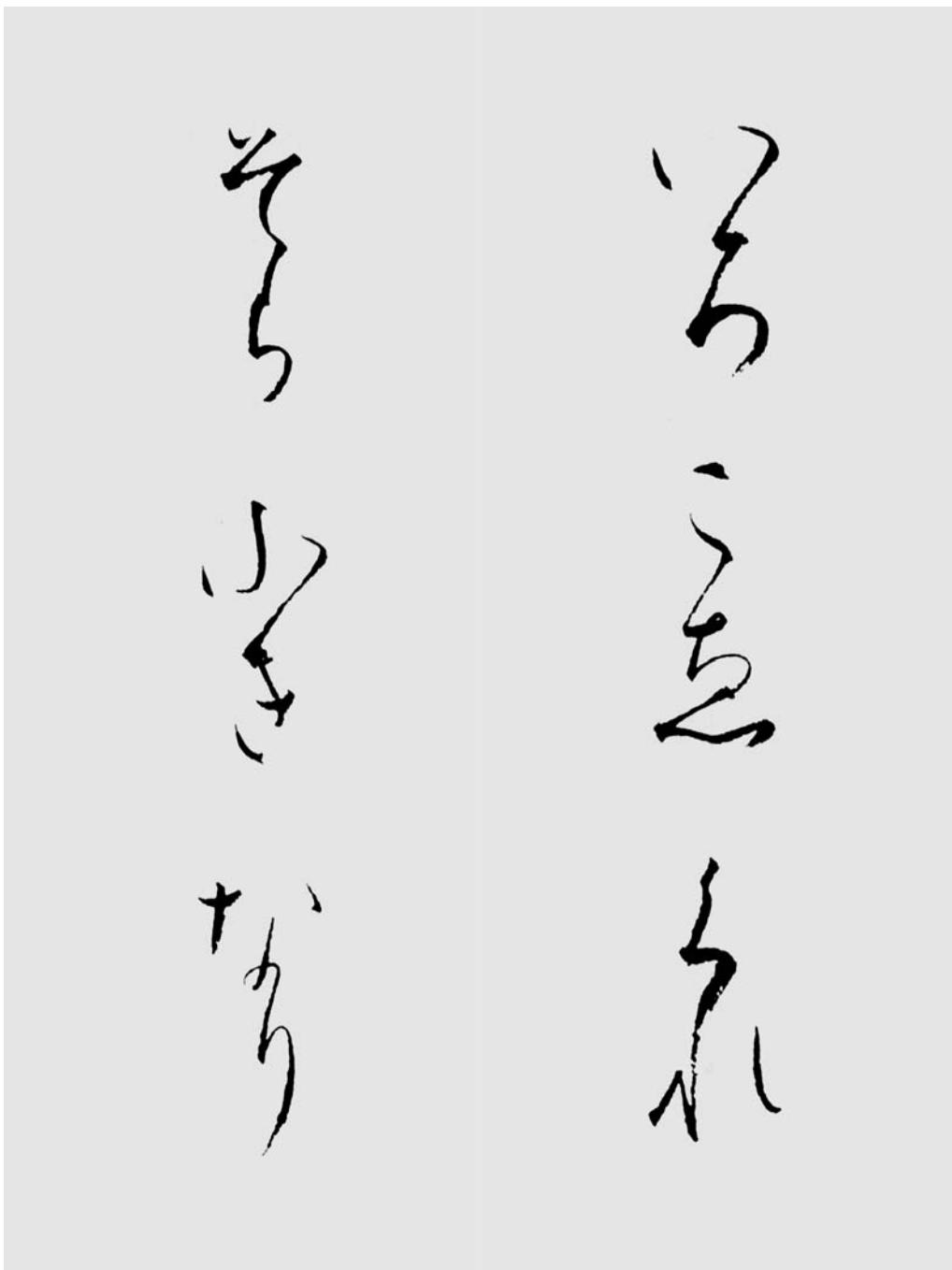
（与謝蕪村）

10月20日必着
出品券を貼付



仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書



- 二字連綿は、一文字を書くような感覚で、一気に書く。
- 二文字の構成は左図を参考に。

漢詩書き下し文であります。送り仮名のひらがなが漢字と調和するよう、大きさに気をつける。

白日山に依りて 黃河
海に入りて 流る千里

の目を 窮めんと欲し

更に上る一層ア 鶴鵠樓

樓

・書き出しは小さめ、墨も多く含めないで、二・三行目に盛り上がりを見せる。

「窮」＝「窮」

鶴鵠

〔樓〕

白日山に依つてつき、黄河海に入つて流る 千里の目を窮めんと欲し
更に上る一層の楼
(王之渢詩 鶴鵠樓に登る)

10月20日必着

出品券を貼付
入選作のみ発表します



仮名条幅隨意【条隨】

上條信山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



青雲當（當に）自ら致すべし 李白

- ・文字の中心を一貫させ、大小の変化をつける。
- ・横画はしっかり太めに書き、平行にする。

春は（八）花夏は（本）ととぎ（支）す（数）秋は（八）月
冬雪（ゆふてすず）（ゝ）しか（可）り（利）け（介）り

- ・大胆な含墨と渴筆の差を大きくする。
- ・たて長の字形で伸びやかに表現する。
- ・「春」「す（数）秋」「ゆふて」はP14参照。

中学一年規定【学毛】

山口啓山先生書

中学二・三年規定【学毛】

高田墨山先生書

火 灯
火 鞠

秋 空
鳥 渡

小学五年規定【學毛】

高瀨霞山先生書

東坡道中

小学六年規定【學毛】

烟中高山先生書

大壯雲山

小学三年規定【学毛】

恩田靜月先生書

日本
空手道

小学四年規定【学毛】

燕木珠紅先生書

日本
空手道

小学一年規定

【学毛】

宮本耕成先生書

This image shows two characters written in a fluid, expressive cursive script. The character on the left is '心' (heart), which is written with a large, sweeping stroke that loops back on itself. The character on the right is '火' (fire), which is composed of three smaller, curved strokes.

小学二年規定

【学毛】

虎井暁鐘先生書

This image shows the same two characters, '心' and '火', written in a different cursive script style by another master. The '心' character is rendered with a more vertical and angular approach compared to Miyamoto's version. The '火' character also has a distinct, more rounded form.

硬筆規定

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條信山先生書

造られる書の形はか(可)ぎ(支)りな(那)いし(志)その(能)線のう(徒)くしさも亦同様のことが(可)言える。

送りの書の形は、こう／＼、

さく／＼線のこう／＼、もく

因循のこう／＼言える。

一般規定【一硬】(級位)

二瓶嶽風先生書

人の繋がりが乏しくなる時代に、

大切にしたのは、情熱的なまで

の出会いと思いやりだ。

中学規定【学硬】

藤岡月華先生書

和紙をすくのに一番大切なものは
きれいな水、きれいな空気、そして
美しい心です。

小・中学生随意課題【学隨】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。
出品券を貼付して下さい。

一小 一・二年学	月
五小 一・六年学	過去
中 三・四年学	競走
高 三・四年学	高

手本解説

・硬筆一般規定(師範・準師範・段位)

「書の形」「線」「同様」は左図参照。

書の形 線 因循

・仮名条幅随意「春」「す(数)秋」「冴えて」は左図参照。

書の形 線 因循

学生部規定

秋空渡

川鳥

中学二・三年

灯火親

中学一年

「秋」は異なる方向の左払いに注意。「空」
は上部の余白のバランスを意識。「渡」
は払いの長短、角度の違いを捉えたい。
「り」は向かい合う線の角度に注意。「鳥」
は横画を等間隔に。

「灯」は偏旁の位置に注意。「火」は左右
の払いでバランスをとる。「親」は偏の右
側を揃える。「し」は下部の運筆をしつ
かりと。「む」の二画目は中心より左側
から始め、最後は上に向かって払う。

話し手の説明や報告について

「気付いたところは提案や

助言をしよう。

小学三・四年規定【学硬】

名前

大島皎山先生書

支部 級段

雲ひとつない野原の真ん
中で大きく手を広げて息
をすいこんだ。

名前

支部 年 級段

小学一・二年規定【学硬】

竹内藍山先生書

つ	子	町
ぎ	ど	の
ま	も	おま
す	み	まつ
.	こ	り
なまえ	し	り
きゅう	を	で
だい	か	は

※出品券を貼付して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペンを使用のこと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆のこと。作品の大きさ↓たて18cm 横こ7cm 小さい・二課題↓2.1cm 巾の野線を引く。小三・四・五・六課題↓2.1cm 巾のマス目

「足」は口を小ぶりに、下部は伸びやかに左右へ広げる。「あ」の一画目は右上に注意。三画目は運筆にメリハリをつける。「と」は始筆の方向に気をつける。



小学二年

に終氣意。夕の二本の左払いの長短、角度に注意。上位けの「一」、「二」、「三」の運筆の方向に注意。下位けの「一」、「二」、「三」の運筆の方向に注意。組み合わせを意識する。大始向幅・に注



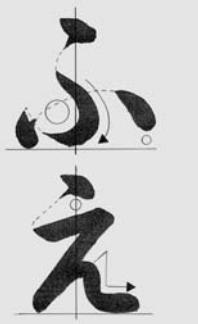
小学四年

「出」は外形は縦長。左右対称を意識する。「大」の二画目の角度を意識する。「社」は一旁の大



小学六年

「ふ」の外形は正三角形。二画目は立ち過ぎないよう角度に注意する。「え」は底辺を揃えて安定させる。二画目は線の方向や折り返しの角度などが重要。



小学一年

「山」は三本の直線の角度、間隔に注意。行による。う。「に」、「じ」、「も」はみじめの縦長払いの斜線。



小学三年

「虫」は中心線を意識する。左右の点画がボディント。横幅の長短、角度に注意。横幅の組み合



小学五年

古典研究シリーズ ④【古典】

こじゅのふ

枯樹賦

唐六三〇年

褚遂良（五九六～六五八年）

今月のテーマ

表現的臨書(A)

中字(二字～六字)

書き方

- ①文字数を間違えないで出品して下さい。

- ②書き文字でなくとも構いません。

- ③落款を入れて下さい。

- ④作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。

- そして制作意図も書いて下さい。

- 古典研究の出品券を貼付して下さい。

(編集部)

表現的臨書

(A) 線に主観を加える

〈ねらい〉自己の要求に応ずる線を、古典の形を借りて自在に表現する。

〈学習①〉課題の古典の中から四～六字を選び、写実的臨書をして、その形をしつかりとらえておく。そしてその形を用いて、次のような作者の芸術的意志(表現意志)を次々に加えて、様々な線表現を試みる。

Ⓐ運筆に変化を与える——(ア)筆圧を変化させる (イ)遅速、緩急をつける (ウ)細太、強弱をつける

(Ⓑ)筆の種類を変える——細太、長短、剛柔、竹筆、鶏毛筆、その他自己創案の筆などを使ってみる

(Ⓒ)墨色をさまざまに工夫する——濃墨、淡墨、にじみ、かすれ等を効果的に用いる

(Ⓓ)いろいろな用紙を用いる

〈学習②〉右の要素をいろいろとりまぜて、全く独自の新しい線表現を試みる。



〔原文〕若夫松子・古度・平仲・君遷。森梢百頃。槎枒千年。秦則大夫受職。

高橋景羽墓表について

寺尾 碩雲

1 概要

高橋景羽（一八〇四～一八六八）は中林竹洞に南宋画を学び、頬山陽に書を学んだ文人である。碑の撰文は明治の文豪である森鷗外。宮島詠士先生が55才（大正10年）に書かれたものであるが、碑に宮島先生の名前はない。岐阜県安八郡神戸町の神護寺善学院にある。詠翁道話の中で「（宮島先生自身）55才頃が最も氣力が充実していた時期であった」と回想している。

2 高橋景羽墓表と信山先生

信山先生には平成四年一月十七日に自宅で「高覽いただいた。少しご体調が優れない時期であったが、「信州大学大学院でどんなことを勉強しているのか。」と尋ねられた。それから高橋景羽墓表、根津先生墓誌銘などいくつかの宮島先生の拓本を広げた。いきなり先生の眼光が鋭くなり、「これは（高橋景羽墓表）凄い。宮島先生の碑の中で最高峰のものではなかろうか。」と何回も何回も唸りながら熟視されていた。先生のお姿に圧倒され、ついに高橋景羽墓表の具体的な素晴らしさを先生にお聞きすることも叶わずに時間だけが過ぎてしまった。それでも貞子奥様からは「元気になつたようですね。どうやら拓本が欲しくて、しょうがないようです。寺尾さん、用意してくださいね。」とお喜びの様子を伺うことができた。その後、玄之会の稽古を待ち、事務所の先輩方と話をしていたところに、信山先生がにっこりと現れて「たつた今、新年会の色紙が二つ書けたよ。」と係の先生に渡されたのであった。

3 高橋景羽墓表の学び方について

- ① 筆管を強く握り、ほぼ垂直に立て、しつかりとした逆筆で書く。（決して筆を斜めに傾けたり、筆の腹を使つたり、側筆で書いてはならない）
- ② 個人差はあると思うが、玉蘭蕊など、唐筆の羊毛の筆が適している。
- ③ ④ 墓はやや濃い目が適している。（うすい墨は適さないよう思う）
- ⑤ 古典の背景としては北魏楷書を彷彿させるような気迫をもつてているので、造像記、張猛龍碑、高貞碑等の臨書と並行して学ぶとよい。
- ⑥ 市澤先生は寺尾が学生の頃から「これは左払いが太く勢いがあり、素晴らしい。他にも学ぶべきところが多くある。」とおっしゃっている。

「高貞碑」

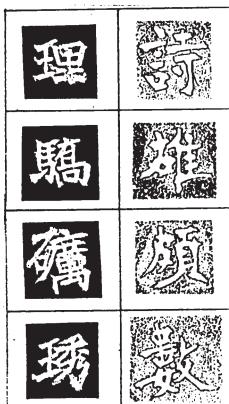


図3

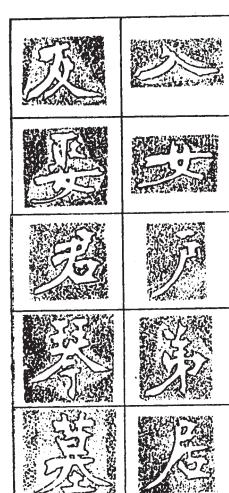


図1

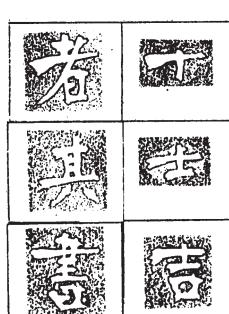


図2

4 高橋景羽墓表の字形について
① 文字の構造が広い。しかし縦長の字形である。

② 太く力強い左払いに特徴がある。図1「入」「女」「戸」「弟」「居」「友」「娶」「君」「琴」「墓」など。

③ 横画の起筆が力強く、鋭く。図2「十」「士」「吉」「者」「其」「書」など。また、九成宮醴泉銘とは異なり、文字の頭の部分を小さくしたり、強調しないところに宮島先生独特の造形感覚が見受けられる。

④ 背勢の原理が働き、偏旁がピタリと組み立てられ、緊張感を持たせている。図3「詩」「雄」「頗」「數」など。左は高貞碑との比較である。その他、図4の「日」「國」「圖」などにも顕著な背勢が見受けられる。

⑤ 図5「四」「冒」「書」のように、「口」の部分を形作るところに特徴がある。

—本格の輝き—

第33回 読壳書法展

【東京展】

会期 8月19日(金)～28日(日)

会場 ①国立新美術館

②サンシャインシティ文化会館

審査部長代行 常任理事執行役員 特別賞選考委員

田中節山

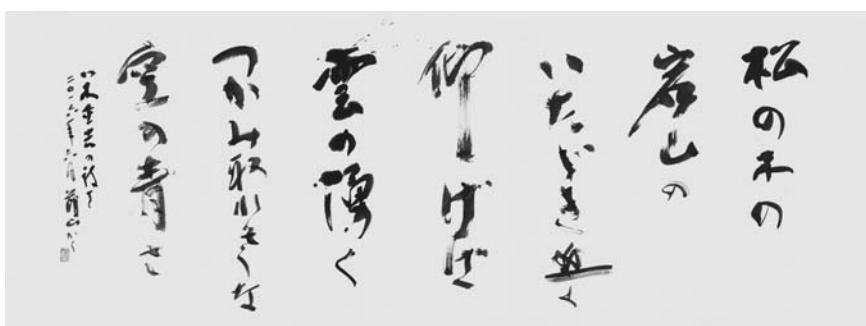


常任理事 審査進行

市澤 静山



市澤 静山



サンシャイン展示作品

田中節山



常任理事 本年度審査員

内藤 望山



理事 本年度審査員

宮本 耕成



読売新聞社賞

大島 皎山

読壳俊英賞

小川仙草

読壳獎励賞

北井珠虹

八月湖水平、涵虛混太清。氣蒸雲夢澤、波撼岳陽城。欲濟無舟楫、端居厭聖朝。坐觀垂釣者、徒有羨魚情。仰慕之言也。

読壳俊英賞

小山春聲

萬鶴西樓ノ月長江万里ノ清景、千度空シテ、憶ク武昌城。爾乃送ルニ別レア、萬シ難シ様ヲ、街ムモ惜シシテ、未ダ傾ケ大湖ノ風。山寒ヲ張シテ、地山ハ、亟カ昇リ、追アリ、行詣ハ、雙人ニ重シテ、テルナリ。謂シ詩人諸能ノ清キテ傳ク、淳淡雅ニ、曲有リ、寧セテ、催歌ノ聲ニ、入レシ春聲也。

読壳俊英賞

鈴木花照

喜歎空和悲嘆同、帝子靈溫秉空自舞。暨會不墜懷、益調達金石。清音一香冥、萬物來思。慈母白芷動芳馨、流不諳瀟瑟。承恩直洞庭、曲懷人不見。江上歌華青、集聲草茅。秋雲霞生蘚、惟竹傳聲而後以愛夕陽時。聞聲知常早秋花落、重蘿空掩拂。蘿徑昨與前人、觸起天寒風。玉庭處、不可整瓶經。空霧空懶、育六精。曾並種、蕙散工荔。遺對忘家日。言本盡前路日。唐詩。

秋色從西來、風物自淒緊。金銀輝委暉、玉露或滴轉。鵝鳴暮禽幽、蘭望秋暝。雲落在一起、榮華若朝菌。高遠葉父、捷下興臺公。欽靜觀百歲、間無名。以為準。愁人不輕寐。蘿依台月光、涼風次第集。習生金塘絡繹鳴、春差遠。露凝玄宿柔。綠日以勁。這草不復芳、盛衰各有時。憂來浩無方。玄髮忽改白。使我身各忘。就融逝矣。陵金天、有秋駕。玄輝學高對。妙鳴深樹、盡草承露零。朱華昌風謝。錯舛變東榮。素河轉西野。白槐蕭瑟。姿毫忽變物化珠。

苟客本多愁

今君是勝遊

碧藏雲外對

紅露驛邊樓

杜宇呼名語

巴江學字流

不知煙雨夜何

霧蟹刀州

予在水鄉之歲，至夏，

読壳獎励賞

佐藤京香

祐頭神さびて
松の木の間に月
の演り入りたり
内前の白砂霜
を敷けゝが如し

往昔進行ニ老の
上人大願發想の
事而已。自ら草
を刈り土石を荷ひ
泥濘を靴わせて
秦淮往來は煩ひ
か。右側今は能
立す。神詩に真
神と荷ひ供ひ

秋風一拂りの妙得
と申し。傳うと草主
の拂りける
月夜一拂りの
もてうの上
十六

読壳獎励賞

松本小虹

読売獎励賞

福山京江

特選

松元竹華

中興の道親家而以陸出來每獨往勝亭嘗日和行到赤蘿密室中深樹
深林生深笑多益期文生於赤蘿密室中深樹多益作人同可
體樂無不中意深進游歸入高士勝親人不可知反徑一蓮台櫻山修多
月也並揚昇首山僧來輕輕作坐上客坐間玉葉新聲等酒而笑若肉經
舟角曉色北流滿庭即陽萬葉ノ家蓋之高相識三吉屋井水首歌集

特選

菊池龍節

龍節

菊池龍節

特選

橋本桂雪

わたくしはボンペイの一つの光景を君に語りておけまうと
と月が言ひました私は豪湯通りと云ひていゝ郊外
に居ましたそこのは美いゝ花怎牌が紫つたまう
すずの音絶えした花香たちが額にハチの巣を養ひて美
しい手の婦娘と語つた所

特選

児玉葉雪

児玉葉雪

特選

秀逸

北山寒石ニ寄りシカドベシ南庭改リ全夕扇ヲアズ立声裏面ヲ私シ頭髮或カラ
捲リ因雪周山若リ思君草不繕ナリ始点我イ尽モント深大ルモ諒半面才
用シテ重々雲游ケシテ故呈序チ秋高クシテ暮鳥紀エタリ解ニ抱
した珠烈動キ筆ヲ振リて以詩言處ア興奮急急ニ達シ因遊帝哉ニ海
房ニ登ア春アラ秋既シ歌舞各岸ア其ノシソントラ

特選

錦織明花

秀逸

五十嵐恵芳

風急ニ天高ワリテ舞清泉シ皆清アシ沙タウシテ鳥飛ビ
田ノ無卫ノ薄不薄シシテアリ不盡ノ長生源ニトシテホル
万里悲秋常ニ寄トナリ百年多病祖ア台ニ登ル銀鶴苦ア
猿霜ノ聲聲深似新アヒ傳ム酒酒ノ杯

致此自僻遠又悲珠玉製如
何有奇怪毒夜吐光芒虧氣
近膳上龍身寧久藏風塵苦

伊藤曉道

未息待汝奉明王

杜子美詩明花圖

秀逸

伊 藤 西 光

故園東望路漫漫；雙袖龍鐘淚不乾。馬上相逢無紙筆，漫看傳語報平安。
大山五月行人少，君看那裏桑葉如。鳥都護竹管入白
西角聲。一動胡天曉，西原驛路挂城牆。誰家散江亭酒未休，君
去試看沙水上。白雲猶似漢時秋，西向輪臺馬是餘。已知鄉信
日塵蹠，隴山鶯飛能寄語。寄報家人數寄書，小兒書帶。

秀逸

金 坂 心 快

江上茅堂柳四垂，又登旗次遇客降而雨。
多苦饑，照壁水滿蛙笙洗砌一池。夢
浦蕭，枕過疾，理空漠。鳥來逐，喧
心事。何人解，忘此。草齋相知。〔後半〕

秀逸
山 本 明 光

安西都護賀青驛。鼙鼓來，東北此馬賾。陣火無
敵與人，心成大功。成患暮臣所致難。直自流沙
至祁寒，玉座供德恩。征氣猶思戰，堵利誅從諱。高
如詩鐵文，河變韻層冰。翠五養，取位雲漢身。力里
方首汗，汗長安。壯見不敢騎，走過掣電領威
力。知青絲落頭力，君先何力却出橫行道。〔日光〕

秀逸

一 久 詠 香

白馬金鞍從

武皇旌旗十
萬宿長楊樓

頭少婦鳴筆

坐遙見飛塵

入建章臺心

秀逸 (帖)

蒼 鈴 心

清論滿朝陽，高才拜夕郎。還從驛馬踏來，接珥船。行寵就薰扇，日暖迴白闌。霜沾臺遠，島蘋蘭萼得人芳。禁靜鍾初徹，更肆更長晚。河低或庫流，火度生昌富。宣光輝重舉，秋蒲輸揚暗。寂空欲報下詞，不成韋。〔宋之問詩集序〕

秀逸

緒 方 愛 節

秀逸

春 日 皓 靜

涼風吹夜雨，蕭瑟動寒林。應有高堂宴，能忘蓬暮心。軍中宜劍舞，塞上重

〔後半〕

上 條 哲 山

秀逸

方島東萬里，海寒迷天風。群飛急四散，雪路不得從。珍財已
被擇，落班級。向波歌雖無金九曜，飲啖帝丹支。送嘴顧霜雪，故
江葦葉連沙渺。出白鷗沒雲還。山無木火，如此極幽賞。嘗詣鹿角村，發天欽。徑千尋。第一茅舍
新來種十芙蓉。人間微仰足。夏志張前清境苦頭更。天與當詩愛。〔序〕

秀逸

洪 江 惠 庭

朱父掉頭不肯住，東將入海隨煙霧。詩卷長留天地間，鉤竿歌將珊瑚對。
深山大澤龍蛇遠，秦塞野陵風景暮。達奚采鐵女，因龍車指點震生羽。
身弱自是君，身育似骨世人。那得知其故。惜君只欲善，留富貴。何
如草頭露，榮陰靜。君意有餘清，夜置酒。飲前陰，羣朋張月照床席。
羨君衣裳中，書市尋魚處。毛李自道前，問許令何如。志在山房。〔後半〕

秀逸

洪谷静秀

秀逸

野口節風

裏夙琴果樂林重歷 北園荷舞葉涼形秀

秀逸

宿谷硯心

宿中夜興風雨遠清旦聞門山不覺隱几波濶氣鵠鵠空庭
皎皎上高岸舟航遠對秒石壁中流半秦王或深派蓬蒿乃滋
蔓北風不掃除南海盡游漫遍知兵戈氣鬪結久不散神軸恐散
傾陽鳥失光發傷成轉淒涼涉世正憂患藍仁時危和言

秀逸

鈴木花仙

雪中夜興風雨遠清旦聞門山不覺隱几波濶氣鵠鵠空庭
皎皎上高岸舟航遠對秒石壁中流半秦王或深派蓬蒿乃滋
蔓北風不掃除南海盡游漫遍知兵戈氣鬪結久不散神軸恐散
傾陽鳥失光發傷成轉淒涼涉世正憂患藍仁時危和言

秀逸

田中翠花

春在花簷外春在綠草下設下明月古今幽人多愛山林之寥寂
影落於花間水落於流水的有無無不法乎不形同隔三里以爲隔香落於花
長絲之痕落於露葉之痕也山城酒薄也一飲忘千愁也忘千名也朝歌暮唱也忘千
月照荷香荷香是新月自古也忘千月落也忘千月落也忘千月落也忘千
月落也忘千月落也忘千月落也忘千月落也忘千月落也忘千月落也忘千月落也忘千
月落也忘千月落也忘千月落也忘千月落也忘千月落也忘千月落也忘千月落也忘千月

秀逸

富田童柳

君王行路詩書記遠後知祖張連竹解軍塵動搖城鼓旗綱
羽織船船帆在盡驚聲生變響塵揚秋風古北原猶有宦
道人歸驚物候新雲霞出海曙極深遙望江寒烟集誰知
隋草風深顏忌別歌古調揚回蓋酒中
詩中行路詩書記遠後知祖張連竹解軍塵動搖城鼓旗綱
羽織船船帆在盡驚聲生變響塵揚秋風古北原猶有宦
道人歸驚物候新雲霞出海曙極深遙望江寒烟集誰知
隋草風深顏忌別歌古調揚回蓋酒中

雁飛秋色寒平野 月寒光過遠林

秀逸

濱田龍雲

危城陽因邊胡沙與塞塵三春時有虜萬里少行人苦昔阻
天馬蒲萄巫漢臣當令外國懼不覲覩和親鳳郭角弓鳴
持軍獵渭城草枯鷹眼疾雪盡馬蹄輕忽遇新羅市
還歸細柳營回肩射賊震千里暮雲平
龍雲

秀逸

望月華映

日島々睡り足りも猶す起ルニ僵シ小闇衣リ重キテ寒キテ僵リテ走
憂辛ノ體ハ死ハ死ナテ聽キ雪纏峰ノ雪ハ蘆ハ掛木半晝半至
處ハ又ナフテ是レ名リ此マルノ此可馬ハ猶才老キテ益少宮馬リ心泰ニ
身寧キハ是レ晴リ逃故斯ハ狃リ長安ニ往シ可ケンヤ半日タク

秀逸

結城正憲

林臥情每向獨遊墨常晏時從灞陵六無釣徑南河
手携雙鯉急日送千里鷹揚彼乘宵直知此罷
憂急放之清冷泉目得著疏慢永懷青竹客
首回雲間神超物無立莖繁名石與宦正憲人
人

秀逸

吉田麗楓

四海金石交千年有幾人黃子作吏去妻子情猶親宜為詩樂名相感以精神誠古觀成境
喻此性情真難于以標榜然但欲詳鄉僧蘿書館通款殊寂寞是後西山氣濃掩閉韶音
石三十六出空石更青九功九歌聲齊暢淋漓含陰而萬綠際曉聞我櫛誰言扣大音先猶遠才
蓮苦動螢火起日出草木繁五十春冉冉逝於九夏薄半歲故嘗歎炎熱不可復伸月望轉涼沈
雲霧猶繞群樹江西來三峰想新綠逞玄珠不勝吟哦乘素賞其時晴空碧

読売新聞社賞受賞の大島皎山さん

喜びを語る

8月17日の読売新聞朝刊【長野版】に記事が掲載されました
ので紹介します。

大島 皎山 さん 48
(松本市)



表現追求 普及にも力

「率直にうれしい。今後、さらに頑張らなくては」。初の読売新聞社賞受賞に喜びを表しながらも、気持ちを引き締める。

受賞作の書は「透脱」。煩悩から抜けだして自由であることを意味する言葉そのままに、意識を集中し、一気に書き上げた。

小学3年で書を始めた。「書道塾に通う同級生の仲間に加わりたい」という思いからだったが、指導者に素質を見込まれ、高校まで通い続けた。

東京の大学に入学後、本格的に

に書の道に進もうと、松本市出身の書家・上條信山氏（故人）に師事。「少しでも『良くなつた』と褒められたい」と、自分が納得いくまで徹夜したこともたびたびあった。その努力が実を結んだ。

「指導を受けた先生たちへの感謝を忘れず、書風を受け継ぎながら自分らしい表現を追求したい」と、さらなる精進を誓う。

仕事は松本市美術館の芸術員。「筆や墨、表現の楽しさを伝えることができる」と、書の普及にも尽くすつもりだ。

第39回 謙慎書道会東部展

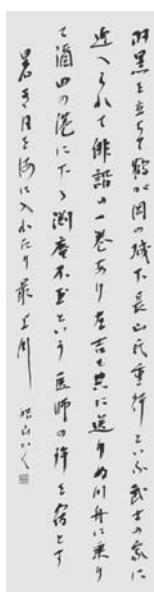
会期 5月14日(土)～16日(月)
会場 栃木県総合文化センター



原田 柳泉



渋江 皎雲



小林 皓山



高瀬 霞山



大澤 梢光



賛助出品
田中 節山

夏季書道大学 「楷書」講座を受講して

全日本書道連盟の夏季書道大学が八月五日から七日までの三日間開催され、五日の午前中の「楷書」の講座を本会山口啓山先生が担当されました。明るく広々とした会場で、初心者からベテランまで約百名が受講しました。

前半は「九成宮醴泉銘」がテーマで、造形的には背勢を基本とすること、露鋒で用筆すること、またその際に四十五度を意識して入筆することが説明されました。先生の手元が前方の大型スクリーンに映し出され、参加者は筆の運びを食い入るように見つめていました。一通りの説明の後は、手本に従って半紙の練習に取り組み、添削指導を受けました。添削には本会の宮本耕成先生と竹内藍山先生も加わり、三人態勢で懇切丁寧にご指導頂きました。先生方の机の周りに弧を描くように受講者が並び、順番を待ちつつ他の方が指導を受ける様子を見入っていました。

後半の「張猛龍碑」にも前半と同様な流れで取り組みました。まず、アンバランスの中のバランスを求める造形面の特色と藏锋による筆遣いが示されました。先生のお話はいかに強い線を出すかということにも及び、筆遣いのポイントを何度も見せて下さいました。そのため、逆筆に不慣れな参加者も練習では着実に前進出来たのではないかと感じています。



講義をする山口啓山先生



熱心に練習する受講生

この講座を通して、一本の線の引き方がいかに大切かを改めて実感することが出来ました。貴重な学習の機会を与えて下さった先生方に心より感謝申し上げます。
(中内眞意記)

書象会通信条幅研究会新規入会のご案内

—11月より新年度—

上條信山先生は、高額な費用をかけずに気軽に条幅作品の研究をしてもらいたいとのお考えから、この通信条研をスタートさせました。信山先生の手本による密度の濃い研究ができるることは当然ですが、月額1,000円の研究費も以來ずっと据え置かれています。

会員は3ヶ月毎、同一課題で研鑽し、作品は各月添削採点されます。11月から翌年10月までの総合得点により年間成績が決定いたします。書象会新年会席上の通信条幅研究会年間成績優秀者表彰でお馴染みですね。通信条研は11月新年度の開始となります。10月中の入会申し込みで間に合います。新しい学習を、今、スタートさせましょう。

詳細については本部までお問い合わせ下さい。

研修部

寺西土藤乘横柏佐吉丸大久櫻岡伊八多丹中藤前大清小齊項石栗西栗守小矢大山千山宮室根吉土石小百村塚内世一大竹龍福安石渡竹栗門澤屋附山木藤原山谷保井本藤木生桐江田住水林藤 田原塚城屋堀島久口葉口永田本沢屋倉山瀬上越田永倉河中 井田井邊林飯
菜美 ひ 虹 彩 ひ 運 保 光 原 ひ
里菜歩厚沙里よ美歩 貴日真里玲秀会の 映幹美和思か温翔 美太 銀恵 竜登 開奎大 涼德太 愛栄朱 菓か友朱飛華寛大
奈子叶洋耶奈リ 櫻花覚愛龍迦弥咲奈士美み卯創子宏智伸遙る樹一雅郎竜河輔美弥生舜登吾悟舞介人郎翔麗那音悠斐り規里光音生斗

吉武出徳高大荻和烟加田滝土齋青伊本村山野小東安山小黒富岡勝南清浅岡高栗小穴久村半難江石井伊南伊梅柳田大戸伊小寺神井
井舎口武橋田原田中藤島沢井藤木野藤多松ノ澤等岡陪本川田田 間 田野 嶋原田原志松田波崎崎 藤藤部藤林澤村山張東林門田上
菜 ひ 虹 彩 ひ 運 保 光 原 ひ
里 ひ 内 原 ひ 奏 ひ 真
侑尚一咲辰朱大泰な真典美和美琴優蒼利凜彩瑠 達日莉愛 菜巧萌賢美播大泰優美義智七元優涼さ敦 里の桃達笑有綺心希優祐梨智
璃之成帆弥リ輝美た衣輝生葉桜美空馬久香乃衣董哉彩瑚莉優緒真絵成波子樹香奈波弘子美輝佳太子浩渚菜り香平菜彩夏菜希花子

東鎌石松須芦佐林阿川足李小松福加加浅中高平木工古人辻袋橋永松小加高胡樹大入樋中高木石三船片辻白中原林池齋高依青山小片縣
峰田井本藤原野 部野立 松田原藤藤倉野橋田下藤市羅本木井本川藤橋桃山石江上島畑村井崎越岡 木神田 田藤野木崎林桐
マ比 朝 友 美 久 澤 華
奈菜ユ奈菜々初杏安真袖侑笑 七洲凜鈴萌澄響寧虹真砂美梨瑞 日未唯郁大結泰 陽有聖朱疏夢拓孝聖步宥菜七翔大優雛招海海
柚華ミ子々子音奈奈寿真香佳茜海季首音唯香稀子帆生羽子加生望菜来香美空月花綾稜奈沙那莉雅乃美幸那美花美虹輝地佳乃海軌並

山大中門鈴山横渡齊佐今酒澤仲安西森鎌大中鈴津鉄土久張森篠高高金加佐岡大水鈴飯元勝山齋田須坂石中伊丸齋小岡渡仁戸堂渡最
本閑山間口木中山邊藤々國井畠市原澤田和村木本川屋本替 田橋木子藤久本澤木笛吉又本藤久賀田崎村藤山藤林崎部多辺垂辺上
もれ 木 紗田 李恵ま あ 奈 間 麻 菜保 菜 見 奈
実もい絢絢美優れ未英 真彩美未莉美佑望瑞愛麻果莉な玲す萌若菜津沙優弥七睦朋未杏菜真々達成湯愛里綾々由瑞華柚菜玲央里花
怜な美香友奈い来里光優帆加致夏伶佳希美希理菜子み香花華菜摘希世衣子海奈実夢莉美妃海香美奈菜穂里穂佳子歩美々香子菜連

塚中竹本土高三沓広三字源佐筆水佐和鈴江佃星和本及蟻江伊町宮松中庄有小山中後松成赤小鈴西小矢馬蒲鈴成小山西篠大鈴
本山内城屋橋宅掛瀧浦田閑藤野田藤久木 川間田橋川塚藤藤田地本村子井林田島藤本瀬座川木澤倉作上池木瀬川口内宮田木 野井村
あ朱 文航川 百 井 み英 菜 英 村 彩
隼か花袖智杏干 悅太璃葵 夕綾弘梨都愛美慧夏愛文來祐 智 愛仁美花真佳胡すな玲樂結愛愛々 梨結玲実花絢彩海結笙朱有聖
介ね理香紀花尋済乃朗子空鈴花香望帆香奈舞利美子香美香繪美舞未美里織菜那々すみ采音美衣美加美愛央衣采優菜那樺梨衣子茄里余

加荒谷上吉上丸原紺高湯鳥鳥宇八野八山井草西肥青上松常平八今河熊木阿小赤廣村金福松大藤服花北竹鈴竹金内肥秋亀片宮内堀萩井
藤木口林橋林山田野川海野代口代本伊刈島田柳原本田松木国辺澤村部久坂瀬松子元原塚森部岡原村島内高野田尾山岡田田 尾口
明 あ ひ 保 美
颯真心舞優千理京胡優楨日琴芽歩日美愛彩香 来早秋奈彗天す真里よ龍結小優俊青明桜一未龍結愛濃聖 和 有千降代千千 涼明芽
良結音衣香花愛佳桃花太莉乃生真香波叶月奈匠未紀華緒太音さ優奈り哉奈梅維哉空花子実沙吾奈梨佳愛葵泉優彩鶴成子咲花樹介香奈

花福加日熊深荒鈴池清西清坂忍権三真赤横黒宮宮枝齋駒古兼齋菊小百伴宮山西小小黒太山仲岸塩佐大中西清寺柳長大北竹長小原原岡
岡藤吉木澤尾木田水山水本足口崎戸道堀田澤田田野藤ヶ内岡藤地林瀬野田崎島原林森田梨山本尻藤澤島角水島澤谷角村谷松田澤
友 美友 ま ま 慎 墓 墓 あ あ 川地 川
茉未紀理真奈穂彩悠 乃里明ど悠裡景 美 之光 うら咲晃幸将友奈 珠和一薰楳秀華遙帆 代祐健信 ゆ綾勇璃匠柑勇莉恵由
奈貴佳帆奈優那歌乃里江凜美恵莉か聖未澄彩月元助希葉凜ら幸貞乃也香音怜大奏葉平奈弥奈人花彩野哉太平隼美香太香伍太太子衣展

佐八小小細中金青桑植村松村稻早柳秋閑鈴平大細樋大松杉石渡石青吉内徳竹三新山臼吉小廣梅中齋笠齋小澤田岩磯加古山春植志折
藤谷野島貝見子木原口田田垣川原田根本賀森貝原家尾本垣辺橋木田藤原内浦尾口倉川林谷津尾藤神藤山村本田崎木藤木下日口渡井
実 來紗 明 瑛 真 あ穂ア莉 さ
真虹真美詩愛有穗実祐香風琶琴実里美莉紗 祐愛世袖由美愛桜愛暉風早真美々沙莉夢 胡結乃若陽万優優琴か乃や彩美優優莉貴美く
人輝香晴音美香世果奈優香羽桜緒咲子英花奈夏渚花季觀花太心繁花紀采結華羅香乃蘭桃子愛奈奈桜奈芽美り花み子紅羽起緒乙紅ら

土大滻武水白鈴須鈴安多森森高小森戸井吉三福佐阿坂平し小佐会山鈴高川本岡青安宿大箭木村平浜宮賓西南宮白山細井郷橋堀相八本
橋森口藤野石木藤木藤島島橋林 田上岡宅江藤部上野久林久田木橋端多田山藤谷澤内村上田下河村澤下井口野田右本部場谷田
ゆ 慶 明 い 間 悠 陽と 原 近 ひ 陽
愛蒼づ潤翔 理康太 朱耕晴胡輝奏陽佳英葉君目佳 夏す千汐太望美瞳力桃七 優菜も早花達奈 美奈亞溪絢華夏愛和な 萌夏
來真は哉太萌紗太郎楓里大菜桃明心菜保宣菜代望澄光輝な晃桃里郎翔稀磨也奈海渚花乃か希織哉迷遙夢津妃香愛躍步美多弐の楓詩

山駒塚駒入茂嶺齊
嶮形本形江木野藤

莉も志玲も心杏颯
緒あ歩生も翔咲祐

◎ 優秀指導者賞

橋本桂雪先生 小室墨汀先生 武原幽節先生 渡辺華雪先生 中川元先生

○ 団体賞

練馬支部 芙蓉会第二支部 丸子修学館高等学校 美菜会支部 光ヶ丘支部 守山北高等学校 聖徳大学附属女子中学校高等学校

◎ 優秀団体賞

華雪支部 玄機会支部 秀明英光高等学校

総出品点数	4 6 5 3 点
信山先生記念賞	2点
日本書道芸術協会大賞	12点
日本書道芸術協会準大賞	26点
全日本書道連盟奨励賞	30点
推薦賞	96点
特選	241点
金賞	905点
銀賞	2280点
銅賞	939点
入選	122点

入賞入選点数内訳

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)



感謝

柏心支部 中三

中垣内 茗 惠



成果

河野 紗 知 中三



九年間

芙蓉五支部 中三

原澤由展

今回、特待生合格という目標を達成することができました。とても嬉しいです。私は成沢臨舟先生の御指導を受け、家族、楽しい仲間がいたから、合格できたと思います。本当に感謝しています。ありがとうございます。本当に感謝しています。ありがとうございました。本当に感謝しています。ありがとうございました。

支部長先生より一言 遅いスタートでしたが、真剣な学習が実を結び本当におめでとう。今後は更に上を目指して続けてましょ。



私の楽しみ

珠悠支部 中三

奥手璃子

私は幼稚園の年長から書道を習っていて、気付けばもう中三です。中学に入つてから硬筆がペン字になつたので、楽しくて仕方があります。書道だけは、一度もやめようと思った事がないのでこれからも頑張りたいです。

支部長先生より一言 素直で快活な璃子ちゃん。塾や部活が忙しい中よく頑張りました。「継続は力なり」これからもコツコツと丁寧に頑張って下さい。



特待生になつて

練馬支部 中三

樋崎帆夏

私は書道を小学三年生から友達と一緒に習い始めました。中学生になり部活との両立が大変でしたが、先生や友達の支えもあって念願の特待生になることが出来ました。これからも書道を続けていきたいと思いま

支部長先生より一言 ここ一番では絶対に諦めない姿勢は見事です。目標を一つずつ達成し更に飛躍して欲しいと思います。



三度目の正直

霞墨支部 中二

藤崎礼文

小さい頃からあこがれていた特待生になる事が出来てとても嬉しいです。また、ここまでこれたのは熱心に楽しく指導して下さった先生のお陰です。次は、師範に向けて頑張っていきたいです。

支部長先生より一言 後輩の女子の憧れです。定めた目標に向かう姿勢はお見事。更なる向上を期待しています。



目標達成

折原支部 中三

岸かりん

はじめて試験を受けて、山ほど不安なところや心配なところがあつたけれど無事に受かってとても嬉しかったです。今後は「冠達成」を目指にがんばっていきたいです。また先生、今後とも御指導よろしくお願いします!!

支部長先生より一言 もう一度、真面目に努力し続ける姿にいつも感心しています。更なる目標に向って頑張りましょう。



目標達成

折原支部 中三

岸かりん

私は、友だちのさそいで書道を始めました。初めて書道になるまで二回も落ちてしましましたが、三度目の正直で受かり、よかったです。ここまでがんばつてこられたのは先生のおかげです。ありがとうございます。

支部長先生より一言 卓球部で疲れているのに、頑張って書いていました。心からエールを送ります。おめでとう。ファイト。



次は師範

一絃支部 中三

加藤杏佳

とても嬉しいです。また、ここまでこれたのは熱心に楽しく指導して下さった先生のお陰です。次は、師範に向けて頑張っていきたいです。

支部長先生より一言 後輩の女子の憧れです。定めた目標に向かう姿勢はお見事。更なる向上を期待しています。



新たなる目標

久喜支部 中二

間庭未来愛

私は、友だちのさそいで書道を始めました。初めて書道になるまで二回も落ちてしましましたが、「楽しむため」にかわっていきました。書道を楽しみ、特待生をされたことがとてもうれしいです。

支部長先生より一言 特待生おめでとう。強い意志と努力の姿勢が実りました。次の目標目指して前進して下さい。



目標達成

折原支部 中三

岸かりん

習字を習い始めて七年で特待生になることができました。この七年の成果が感じられて嬉しいです。中学に入つてからは部活動との両立が難しかったのですが今まで指導して下さった山田先生のおかげです。

支部長先生より一言 特待生合格おめでとう。勉強・部活と忙しい中がんばり続けた紗知ちゃんと拍手です。

小学一年から始めた毛筆で特待生になれてとても嬉しいです。中学生になってからは、部活動しながら教室に通うことは努力が必要でした。その努力が認められました。ご指導頂いた先生方にも感謝したいです。**支部長先生より一言** スポーツで県大会に出場したり中三で受験準備等色々大変な時期よく頑張りました。今後が楽しみです。

少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

霞ヶ浦支部 小二 関 菜々珈



幼稚園の時スカウトされました。いろいろなおもいこもやっています。すごくかわいいとおもいますが、おもいります。すばらしいですね。

一葉支部 五才 内川美温



四才の時から習い始め、あきずじっくり書けるので、ものすごく上手になりました。英語もピアノも得意で時々英語で上手にしゃべってくれます。

虹苑支部 小五 奈良怜美

明るく元気で伸びやかな字を書きます。体を動かす事が好きな女の子。学校ではバトミントンクラブ、図書係です。忙しい中の頑張りを期待します。

若竹支部 小六 塩川優宗

優宗君の通う野岸小学校は吹奏楽で日本一になりました。そのメンバーとして猛練習に耐え、書道教室も休むことなく頑張っている模範生です。

北府支部 中一 石田夏萌



中学では吹奏楽部で朝夕の練習があり、お稽古事もピアノ、テニス等日々忙しい中で、書道も特待を目標に頑張っている笑顔の素敵な夏萌さんです。

霞ヶ浦支部 中一 藤崎虹太



礼儀正しく、しっかりとしています。中学になつて自転車通学になり、ハンドル部なのでかなり大変なようです。が、しっかりと書く姿は、見事です。頑張れ。

練馬支部 小五 和田康之介

お稽古も四年目になりました。姿勢良く半紙に向かい丁寧に筆を運ぶ姿がとても美しい康之介君。これからも一緒に頑張りましょう。

珠紅支部 小中二大大塚塚由未奈沙

音楽大好き、吹奏楽部でもがんばる未沙ちゃん、将棋もじっくり攻める頭脳派由奈ちゃん。二人そろってめきめき書道上達中。家庭の手伝いも感心です。

若竹支部 小小三 塩川咲掬樂佳



お姉さんの咲楽さんは明るく元気いっぱい。妹の掬佳さんもお姉さんに負けない元気なお嬢さんです。金曜日の夜、お祖母さんと毛筆と硬筆をがんばります。

飯山支部 小五 大野田萌南



五年生になり一段とレベルアップしましたね。いつも黙々と練習している萌南さん。これからも更に上を目指して頑張ってくださいね。

一絵支部 中一 加藤潤

人の心が潤う様にと命名の由来通り、まさに優しくてニコニコの潤滑油的な存在です。造形感覚も優れていて真面目に勉強しています。

飯山支部 小五 轟雪乃

明るく、しっかりと者の雪乃さん。友達の面倒もよくみてくれ、大変頼りになります。言われた事はすぐ理解しこれからが楽しみです。

今月の優秀作品



△漢字条幅▽ 評 大澤 梢光

劍山 大胆な運筆でスケールの

雄大な秀作。

霞菖 適切な大きさで線に雅味

のある作。

皓靜 逆筆がよく効き冴えた線

質が魅力的。

糸島高ノ飛ニテ盡キ孤雲獨リホル
コト用ナリ 相看テ兩ツナカニ歎フ
ゲル只教亭山有ルノミ 李白詩吟考書フ

△調和体条幅隨意▽ 評 二瓶 嶽風

玲秀 逆筆の効いた力強い線と

形、リズムよし。

貞松 同太の線で迫力あり。行

間の明るい作。

光紗 漢字とかなの線の響きが

快い秀作。

△通信條幅▽ 評 楠口 玄山

倉谷聴月 銳い線質で軽快な筆運び

が心地よい。

柳澤雪葉 おだやかでゆったりした

運筆がよい。

島田壺峰 潤渴よく、大胆で流れが
美しい。

基本課題

評 内藤 望山

松眉臥
京聲

松眉臥
京聲

松眉臥
京聲

松眉臥
京聲

静 淑 雅 華
素 州 師風に自己の動きを加えて躍動感溌溢。
太 一 等庄等速による清澄感の強い努力作。

研究課題

評 柳澤 玄嶽

江戸川足立葛飾荒川北
墨田江東世田谷武藏野
小平国分寺立川八王子
信大
萩原梓虹

江戸川足立葛飾荒川北
墨田江東世田谷武藏野
小平国分寺立川八王子
志摩
楊舟

江戸川足立葛飾荒川北
墨田江東世田谷武藏野
小平国分寺立川八王子
上尾
内川康蟹

江戸川足立葛飾荒川北
墨田江東世田谷武藏野
小平国分寺立川八王子
新城
一般
和田彩香

意盡

樹婆

此樹

婆娑娑

陳真

志摩院

苦呻

獻心

古典研究

評 虎井 曉鐘

荻原梓虹 構造が豊かで、筆を自在に操っている。
大西陽舟 墨量十分で、重厚感と線の動きが見事。
内川康蟹 切れ味のよい線。鍊度ある格調高い作。
和田彩香 枠に対する大きさが適切で余白美あり。

沖島映春 軽快な運筆で品格があり写実性も高い。
上條恵香 粘り強い線質で行意を巧みに表現した。
天谷茜草 巧みな運筆で明快な鍊度の高い秀作。
美齊津嶽心 写実に徹して、伸びやかで豊潤な佳作。

師範部

△行 書▽

評 柳澤 玄嶽

大賀霞泉 洗練された行書の風格と氣力、躍動共に佳。
岡田象月 清冽で流麗な線質、格調高く鍊度深い作。
岡部葵葉 素直な筆遣いでリズム感良し、誠実な作。
大山節華 筆勢があり、形も写実的で鍊度ある作。
石原絢楓 濃墨をうまく紙に乗せ、沈着で上品な作。
浅井菖風 安定した筆遣いで、落着きと調和ある作。

以多愧

以多愧

以多愧

以多愧

以多愧

以多愧

云溪評
卷之四

文化
序
舊草

京都一枚詩花石原絢楓

李厚
詩花
苦風

安定した筆遣いで、落着きと調和ある作。

石沢秀庭 錐先の効いた確かな運筆で、構造広い作。

川島映雪 柔軟な線質で、流麗な流れを表現した。

漆原聖果 誠実な學習態度で特徴をしつかり把えた。

久保田珠悠 一画一画の正確さに好感。基本に忠実。

小見汀心 筆の弾力を充分に駆使した力味のない作。

遠藤亮風 抑揚豊かで味わいのある線、形も見事。

竹野翠紗 悠々とした運筆で、律動感に溢れた作。

濱邊聴舟 直線的で力強さがあり、空間美も抜群。

涼 華 切れ味のよい見事な線で大胆に仕上げた。

沙 雪 力みのない書きぶりで上品にまとめた。

暎 光 含墨豊かで重厚な線質が印象的。

壺 藍 筆の開閉が自在で連綿も美しい。

統 華 スピード感のある線質で爽やかな秀作。

淡 愁 細身ではあるが線に緊張感が満ちている。

柏 園 大胆な運筆でスケールの大きさが良い。

穆 舟 字形が良く、全体構成も整い格調高い作。

皓 花 澄み切った線で、連綿の流れも見事。

瑞 瑶 軽快な運筆で、明るく仕上げている。

凰 山 運速緩急の変化のある線がとても魅力的。

翠 花 運動感のある線で、堂々たる仕上り。

△仮 名▽ 評 宮本 耕成

学 生 部

評 江 上 玄光

重松千尋 一点一画が丁寧で、余白の明るい作品。

脇田彩響 力強い線でゆったりと堂々と書けた。

鈴木そら 字形をよく研究し、墨色豊かな秀作。

青柳佑奈 伸びやかな運筆でおおらかに書けた。

大谷地麻璃香 腕の大きな動きが感じられ、力強い。

中島菜央 確かな筆づかいでバランスよく書けた。

石井董花 墨量豊かで太く力強く、形よく書けた。

原田京佳 力強く堂々たる書きぶり。名前も見事。

田辺千尋 ゆったりとした線で温かみのある佳作。

樋口祐果 元気よくびやかに書けた。名前も良。

佐生結衣 大きさ、形よく、力強く明るい作品。

奈良希歩 ていねいにしっかりとした線で書けた。

薄井光悠 筆づかいよく元気よく明るくまとめた。

山口稜介 形よく、大きく元気よく書けた。

吉野麻奈 のびのびと大らかに、形よく書けた。

伊藤悠貴 堂々とした線で、形もすばらしい。

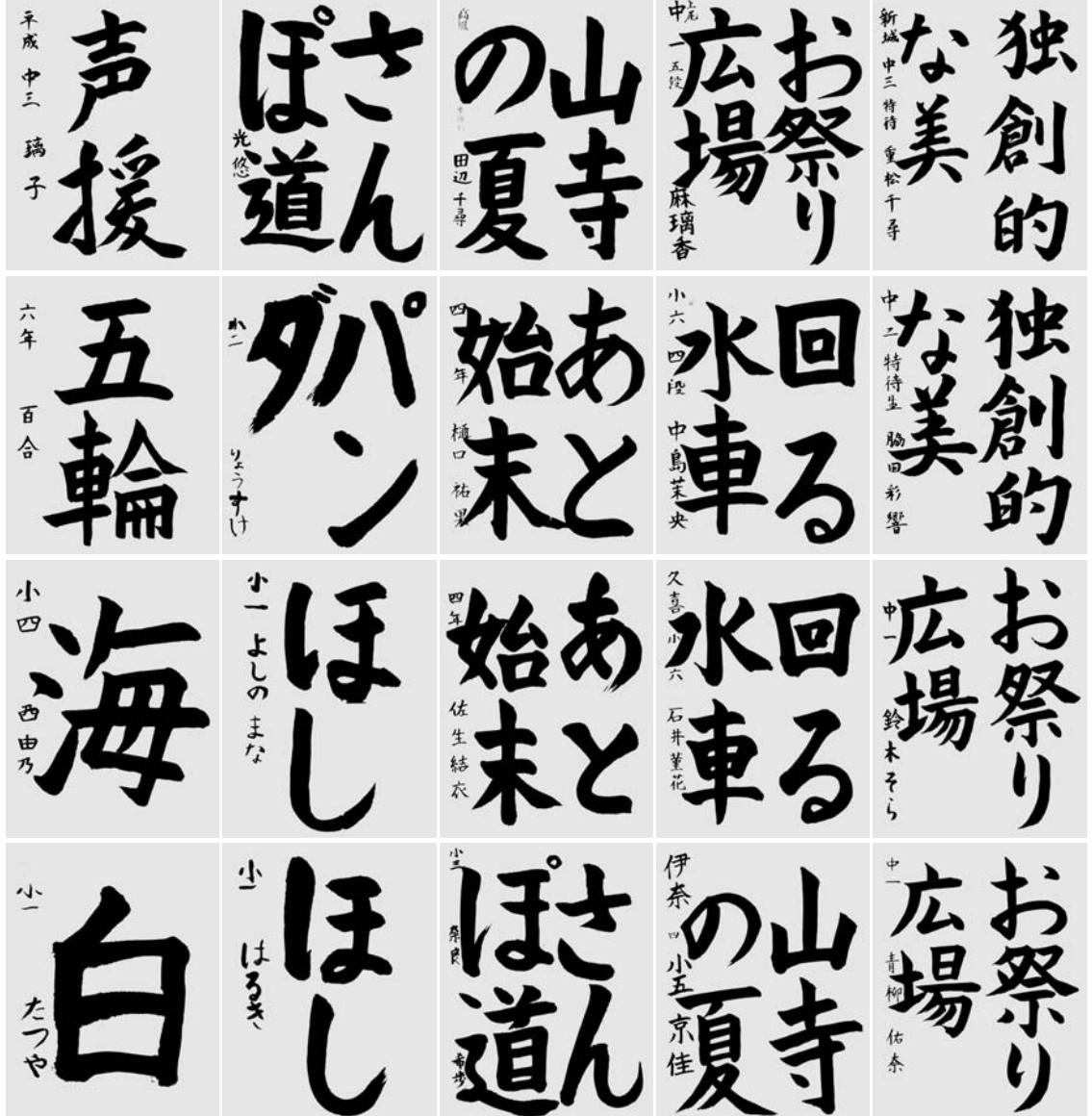
宇田川璃子 確かな線、形よく、良い作品ができた。
坂本百合 正確な筆づかい、強い線が出ている。

西 由乃 うでを大きく動かし、どうどうと書けた。
藤崎竜也 ふとく力づよいせんで、りっぱにかけた。

半紙隨意

評 関 香風

このページに掲載された人には書象会より記念の
筆をさし上げます。



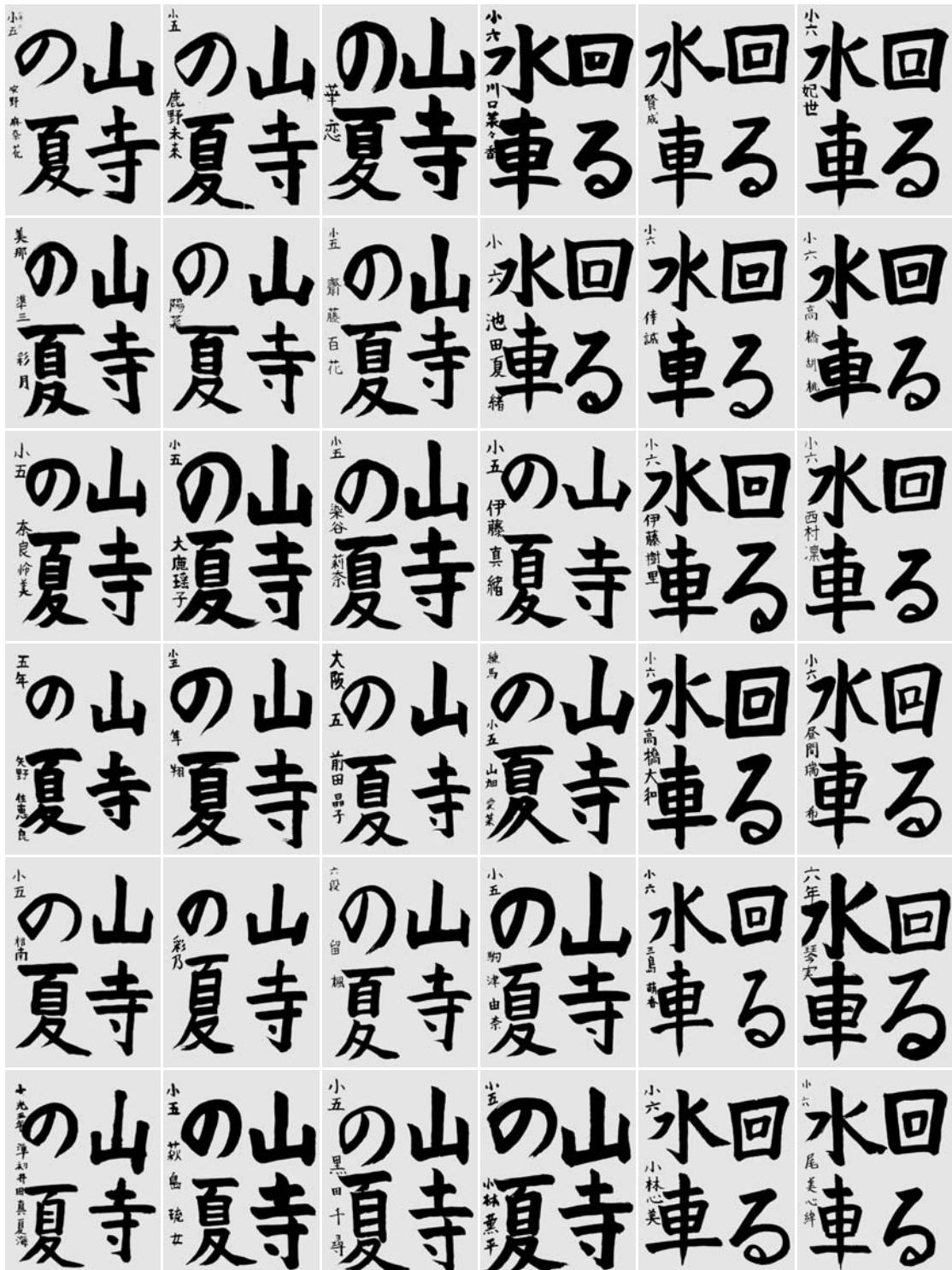
月ひきや 反龍也	月ひきや 反龍也	玄誠 三級 清実	玄誠 初級 上原 京子	芳師 茅遠深 以為愧								
月ひきや 反龍也	月ひきや 反龍也	高杜 清水彩未	高杜 準初級 恵香	芳師 茅遠深 以為愧								
月ひきや 反龍也	月ひきや 反龍也	柏青 大園多美子	柏青 大園多美子	芳師 茅遠深 以為愧								
月ひきや 反龍也	月ひきや 反龍也	柏青 大園多美子	柏青 大園多美子	芳師 茅遠深 以為愧								
月ひきや 反龍也	月ひきや 反龍也	柏青 大園多美子	柏青 大園多美子	芳師 茅遠深 以為愧								
月ひきや 反龍也	月ひきや 反龍也	柏青 大園多美子	柏青 大園多美子	芳師 茅遠深 以為愧								

若若玄須級八長八横游横笠高段位
松竹耀坂潮野戸浜墨二原風位
東上原青木仁畑工清周高吉唐川
香京誠純子薰賀昇和蓮文満安哲子

八横柏高玄平杉若瀬級八若長虹秀横横小杉玄相茅桿高風行
芳野雪芳社嶽成竹戸戶竹野友雪浜二光黙模野森高風位書
大植田羽清望沓村相磯村由寺島ゆ江戸上原子影山生司快
園多美元直龍彩清夕和美子惠京子響山翠成子涼真志
美子規雄未実佳美子正濱涼真志
子薰子光堤一雪芸子惠京子山翠成子涼真志

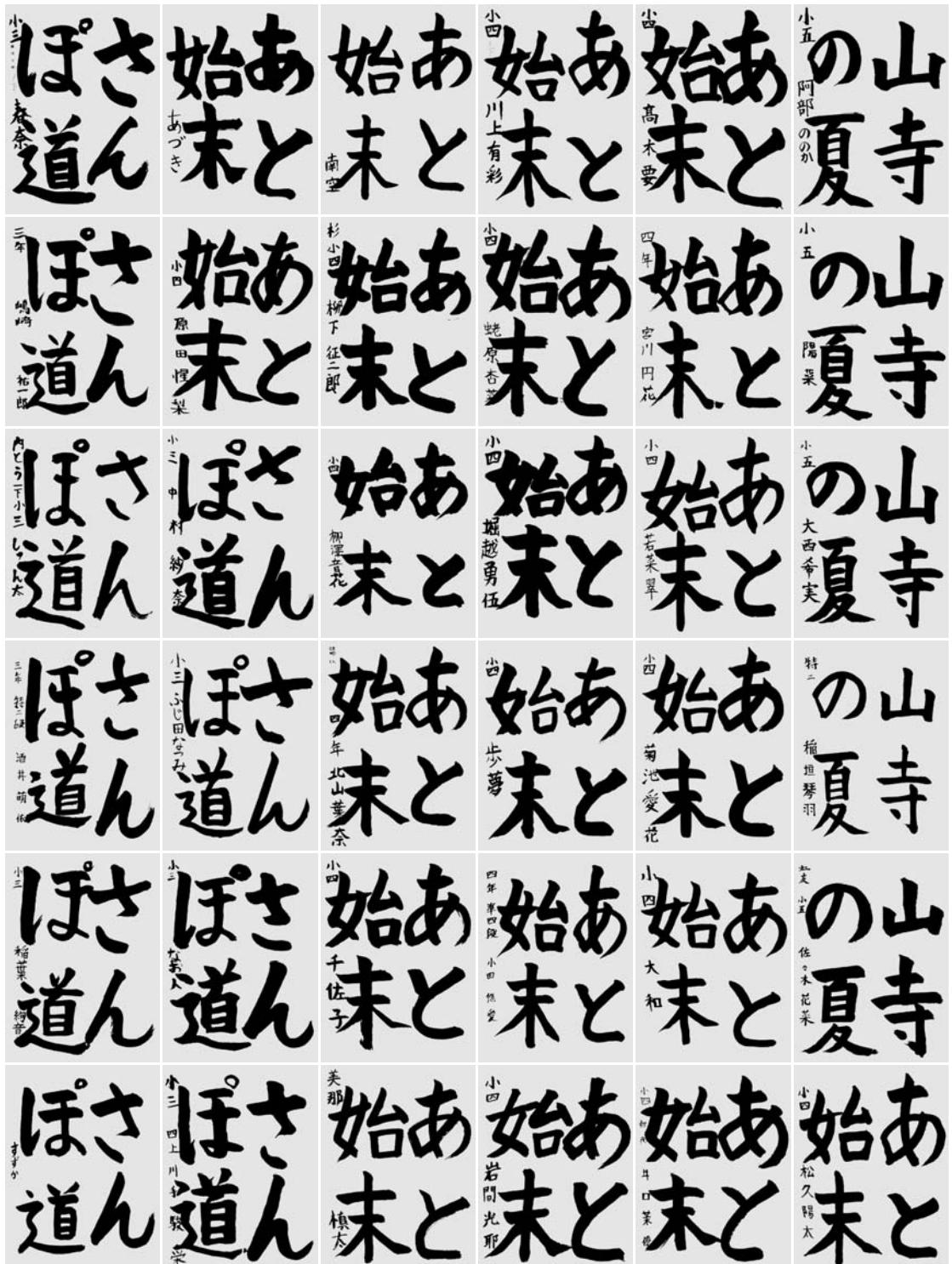
獨創的 な美	久喜 中二 藤澤 こと葉
獨創的 な美	百合田 清仁 紀香
獨創的 な美	中三 平井 里咲
獨創的 な美	中二 德竹凍
獨創的 な美	中三 幸子 古南 里夏
獨創的 な美	中三 美菜 中三 特待 池田 千香
獨創的 な美	中二 美和 中二 紗和
獨創的 な美	中二 吉浦 真理子 里咲
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌
水車 回る お祭り 広場	小六 中一 小林健太郎 桐原萌

杉成城	凜心優生	折原中野	中野茅野	飯綾華綾	正桂華絵	一茜光丘	華雪石峯	千曲若松	華雪中央	霞富士山下	有象荷葉	中野富士	龍文船橋	シ一荷葉	久喜若竹	
柳下昂太郎																
柳下昂太郎																



[小五]

小光	源創	虹苑	霞墨	月	瑞祥	雅	凛心	名東	峰	大阪	玄默	高社	青雲	練馬	松戸	大象	城彩	御代	藏	右文	玄樸	若竹	宮川	中央	和雪	華	
井田	若狭	奈良	矢野	井伊	安野	麻奈花	萩島	山ノ内	彩乃	大鹿	岩本	神崎	鹿野	前田	黒田	染谷	竹島	小林	伊藤	川口	菜々香	萌香	外山	尾美	又場	妃世	胡桃
真夏海	佳恵良	怜美	彩月	隼翔	瑠子	陽菜	未来	千尋	留楓	晶子	華恋	由奈	薰平	莉奈	百合	華恋	山畠	小林	三島	高橋	樹里	心美	心絆	賢成	瑞希	凜	妃世



【小三】
 芙二 玄默 藤内 藤研 雪華 華秀 雪秀 照澤
 豊田 葵葉 佐藤 加藤 酒井 五十嵐 嶋崎 五十嵐
 涼花 純音 春木 木春 依駿 駿栄 一郎 直人
 菩薩 真名 東藤 原田 物部 湯川 近藤 千佐子
 瑠璃 美月 菜月 美月 紗奈 紗奈 紗奈 紗奈
 中村 柳澤 岩間 榎月 榎月 榎月 榎月 榎月
 杉原 坂口 小田 伊東 岩間 岩間 岩間 岩間
 真悟 榎下 征二郎 南空 光耶 光耶 光耶 光耶
 幸平 堀越 堀越 堀越 堀越 堀越 堀越 堀越
 倭平 岩原 岩原 岩原 岩原 岩原 岩原 岩原
 瑞成 宮川 宮川 宮川 宮川 宮川 宮川 宮川
 瑞祥 久陽 太陽 太陽 太陽 太陽 太陽 太陽
 佐々木花菜 琴羽 希実 華雪 たけ志摩 華雪
 佐々木花菜 琴羽 希実 阿部ののか 阿部ののか
 佐々木花菜 琴羽 希実 阿部ののか 阿部ののか
 佐々木花菜 琴羽 希実 阿部ののか 阿部ののか

ほし 小一 りな	ほし 少 あいな	ダパン ひろき みか	ダパン 小二 ひろき	ぽさん 道ん ほさん 道ん
ほし 一なんじよなもとあいな	ほし ああが ややか 奈南	ダパン 二年 ゆ	ダパン 二年 春	ぽさん 道ん ほさん 道ん
ほし 五ねん かのん	ほし せーは、 とりみやさ	ダパン 三年 まつおさやま	ダパン 小二 いろは	ぽさん 道ん ほさん 道ん
ほし 四の	ほし りく、うもんりよ	ダパン 小二 はのく	ダパン 小二 えれん	ぽさん 道ん ほさん 道ん
ほし 小一 うつめいなこ	ほし 小一せ いじまつむ	ダパン けいだ ふじ田むら	ダパン はな	ぽさん 道ん ほさん 道ん
ほし 小一 わたり りく	ほし 小一 ゆいこ	ダパン カネコ	ダパン はるか木 二年 みゆう	ダパン 二年 おとくに みゆう

この山愛霞墨江藤渡邊
 星霞珠紅溪月秀雪サン湊玄機千曲有穗乙訓龍文古内
 墨二二愛花文苑秀雪文龍飯山大丘高社大田竹林美菜松聲
 芙二山皓華虹苑秀雪文龍飯山大丘高社大田竹林美菜松聲
 雨爱花雪文苑秀雪文龍飯山大丘高社大田竹林美菜松聲
 渡内吉見河嶋中本山下清治小服三平小棕長塚桜
 海原水原中本山下清治小服三平小棕長塚桜
 結阳菜柚乃香音花里奈純遼心咲加夏奈
 衣子愛花咲加夏奈

な し プ
つ そ ラ
た う ン
ね な タ
。ト 一
国 ト
マ に
ト お
が い
新義理 みゆる みゆる みゆる みゆる

鳥たちはつばさこを動かして、大空を自由にとびまわっています。
新義理 新義理 四年 河合優奈

鳥たちはつばさこを動かして、大空を自由にとびまして、大空を自由にとびまわっています。
新義理 四年 美月

鳥たちはつばさこを動かして、大空を自由にとびまして、大空を自由にとびまして、大空を自由にとびまわっています。
新義理 四年 関根莉子

黒板の前に立って、自分の考えを発表する時は大きな声ではっきりと。
新義理 六年 河合野乃

恒例のラグビー部夏合宿は涼しい菅平高原で実施されています。
新義理 中三 松井優奈

書の構造に竹の点や線や面があり方へ書くことで変わった決まりのものである者で京月

な し プ
つ そ ラ
た う ン
ね な タ
.ト 一
国 ト
マ に
ト お
が い
新義理 二年 特2年 田中真弓

鳥たちはつばさこを動かして、大空を自由にとびまして、大空を自由にとびまわっています。
新義理 五年 稲村りん

鳥たちはつばさこを動かして、大空を自由にとびまして、大空を自由にとびまして、大空を自由にとびまわっています。
新義理 五年 菊池央

鳥たちはつばさこを動かして、大空を自由にとびまして、大空を自由にとびまして、大空を自由にとびまして、大空を自由にとびまわっています。
新義理 五年 大田昌平

黒板の前に立って、自分の考えを発表する時は大きな声ではっきりと。
新義理 五年 杉村拓泉

恒例のラグビー部夏合宿は涼しい菅平高原で実施されています。
新義理 五年 井上万結

書の構造に竹の点や線や面があり方へ書くことで変わった決まりのものである者で京月

選挙権の年令が十八歳に引き下げられることには不安もあるが、責任を持って投票したい。岸本草

恒例のラグビー部夏合宿は涼しい菅平高原で実施されています。
若松 中二 久志智子

みな
木村
河合
井口
明拓
恵理
有虹
龍文
大田
木村
河合
井口
華雪
雅園
大阪
美園
湊
新城
霞墨
小一
二
金子
佐藤
森山
瓜生
関根
石峯
木村
聖
倭
凛心
仙台
杉月
稻村
稻谷
小松崎
春華
遥輝
文香
莉央
莉子
遙
美月
遙
花
実花
明か
明か
岩佐
さくら

（硬筆）

【一般】
若竹 須江
水代 藤牧
小平 山下
木華 隆子
京月

【中学】
若松 久志
船橋 松井
名東 有象
和仁柚菊
乃

黒板の前に立って、自分の考えを発表する時は大きな声ではっきりと。
新義理 五年 渡辺輝

黒板の前に立って、自分の考えを発表する時は大きな声ではっきりと。
新義理 五年 木村遙

黒板の前に立って、自分の考えを発表する時は大きな声ではっきりと。
新義理 五年 井口愛理

恒例のラグビー部夏合宿は涼しい菅平高原で実施されています。
若松 中二 久志智子

雅
大澤
菅原
大澤
雅
華雪
美園
大阪
湊
新城
霞墨
小一
二
金子
佐藤
森山
瓜生
関根
石峯
木村
聖
倭
凛心
仙台
杉月
稻村
稻谷
小松崎
春華
遙輝
文香
莉央
莉子
遙
美月
遙
花
実花
明か
明か
岩佐
さくら

競
書
成
績

□写真版
☆秀作
○昇級

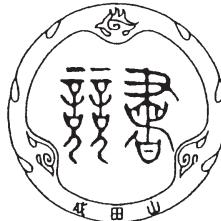
竹笠大華聖産「玄美岐嶽産大高有善静國長文蒲」笠有桙柏三樂志瀬相華上志董玄若大大龍杉蒼京文玄絹玄静巍 友原象雪 吉黙春吉 黒菜阜山古阪風象隣 府野化田 原象森 池書摩戸模雪里摩 橫竹阪象文 穀都化嶽丘黙翠山師行 師 秀秀秀 テ美西華花彩志寶琴光賴壽孝霞想珠白香詠靜景紗玲泰泰風素泉溪笑涼陶敦華陽聽翠亮汀珠聖映秀菖絢節葵象貞靜霞 ツ加 篓	一 篓
子光紋瑠禾道春月帆山苑子舟花松葉窓香秀光淑虹笙仙舟聲州山風子華華子啖秀紗風心悠果雪庭風楓華葉月意翠泉	
春玄書美八自岡美「磯倭巍」玄長「静東奈霞西玄湊京玄巍倭善」静西董靜土源玄善高「京淺上皓飯檻碁折妻杉瀬國硯央上上大 亥心集墨南產谷容 辺山 黙野 和華墨 獄 都嶽山 隣 曜創嶽隣風 都間里花田森雲原科 戸府 尾里阪 秀秀秀 京勇雨哲希淡通董葉葉綠苑大光見秀直裕輪船采妙美清翠慧詠珠朗翠靜花邑英詠憬洋雅愛濤皓成文 柏惜典白雅硯禾康陽汀 猛	
節峯虹子紅愁明玉曉草水心我紗靜峰梓子堂沙葉山香董蘭仙沙雅仙峯葉草花楓幸光仙花苑嶽 園春子羽華心苑仙映珠	
長「玄」土玄「」長「瑞墨」硯「乙六」平「」長「乙千信」長「長」長「長信」長「長」長「長」長「長」長「長」長「長」長「長」長「長」 野 默 筆默 野 祥洋 扇 訓鄉 成 野 訓曲大 野 野大 野吉嶽 牧竹吉岸貴樸象 秀秀秀 静旭清南光輝心鳳寿美皓名名な硯谿千尚香雅佑静江静文紫友千静梓秀恒杳静静江裕玉静富静松万静秀を高文鐘豊太茫と典統翠 お 津 佳	
琳蓉天彦蘭光燈吟靜香靜琴沈美春香晶山子子洲信靜紅子春志虹静静邦千静靜澄靜唱韻里望華竹苑子洞苑一苑春子華花	
「京」月「」静「」葉「」静「」静「」巍葉巍「」静巍葉巍葉「」葉心成「」葉巍 「玄成巍美」游長「」小 都 山書山 山書山 山書山 月和城 月山 燿城山一 墓野 平	
和信初優玲靜静小和百弘京盈君靜美遊霞青雨澄清靜靜心晴茜幸溪葉啓真ま美善益悅鈴芳琴知小文櫻耀光貞天泉征美禮照杠木芳 合 佐す奈	
代楓楓月秀思惠翠子子江月子幸樹心菖沙香江西敬鶴花草草泉茜影子子子一亭子枝子三真映悠楓松竹翠梢光光靜華華月	
「玄」柏座「」玄磯「」相柏巍「」一昭書汀玄汀善六「」静白「」汀玄善「」玄「」湊「」杉「」須善玄「」有京「麗四「」京高「」 樸 心吉 横辺 横心山 絵島之松嶽松隣郷 象山 松嶽隣 嶽 月 坂隣嶽 象都 墓谷 都風	
め半鹿芳春柚芝晶春葉良初美硯江李惠秀清伯順光史士昭靜寿照明み陽詠李双祥公汀華晨杉健杉智智智智詠芳加比紀芳紅美明有彩寿 ぐ 枝 す 代 み里聲舟桃香華山嶺艸江子舟茜風爽光苑映子子代鳳惠成汀節美子子茜葉葉葉子紅遙秀容仁恵洲真峰翠輝祥李葉代彩子江川幸子美希楓雅	
「若」御產蒼産「」南若書「」蒼松芙松「」芙「」白央英文墨磯 土磯一玄莫自綾「」石「」港北 文「」中「」玄港「」八「」富「」 竹 牧吉穹吉 墓竹集 穹南五南 五 岡 五化心辺 曜迎葉心容產華 煙 南府 化 野 横南 潮 貴	
欣耕晶貞秀妍青南越恭穀葛秀厚壺朝春汀壺明美香齊尚玉翠葉礼蘭葉登玄壺心久翔窓恋翁友幹錦肖肖榮嬢小窓み寿逕倉喜明淨桂嶺春 志 な 月山影月泉娘龍松花山月暉月麗山登花海霞彩泉扇花子香溪紫子月湊子勝櫻快惠鶴哲煌心窓峰美雨節華栄香山董真み月子咲笛山春花里	
「青」東三志「」小心東若小若「」小サ「」志サ「」高志桐京「」サ様「」サ「」京秀塩「」柏「」有磯産「」紅「」紅文「」 雲 光林摩 光 和光松光松 光ン 摩ン 風摩生都 ン森 ン 都雪尻 心 象辺吉 竹 雪化	
竹麻千健道光道光美湖禮肇小明光光農未汐聴楊雪香祥清清津詠静碧佳久里直美邦典照禮博良好悠秀幸華楠愛耀祥節葉清穏美紅麗和 代 美 奈音	
虹虹子夫子子幸硯搖亭亭子子秀子漣惠翠央香月舟闌圓仙風子石楓舟京舟蓮子絵子砂楓楓鈴子楓惠楓悠光峰舟麗花節苑徑光美里彩柳節水	
「美香上神號」美美浅「」華「」浅「」上大「」笠華大雅美「」華碩玄「」土「」曉霧美信聖奈「」東今八大「」奈松「」美甲「」松青「」新文春「」 三苑 尾龍山 苑二間 雪 間 里象 原雪阪 蓉 雪雲心 筆 華訪苑州 華 陽井南泉 華南 五府 南雲 城化鳳 林	
沙沙藤康香花沙真美矯華華韶湖濤陽翠泰治華玻雅明華華奧嬉蒼姫八喜舒沙令碧励天千江感武春萌淳由南里清琴 志瑞香陽亜春由正 利 千久 美 厚 登記 紀	
泉春子照風逐麗弓子峯苑慧泉泉山理松邑岑子芯玉虹惠容絢泉逐子峯沙光代男山雪子瑠子幸靜風心春信泉子子流奈公水 苑竹織江子鳳子	
「」笠「」国暁「」美「」琥「」頑「」大「」富「」土「」富「」石硯「」香妙京「」若大「」大頑「」華美「」備虹「」半備 美静「」 原 府泉 菜 山 雲 象 貴曜成 貴峯 高都 宮手 象雲 雪墨 後友 田後 墓	
泰久や泰峰景峯鶴美た霧葵絶度真壯水悵天天天蠶怜朴天蠶壺八瑠真 頇莘弦梗梗光巡圭多華華華華華都八菖蒲虹桂景菖美照珠沙 よ か 重 巖 喜 ナ 知	
蕙蕙い空泉泉山苑仙ね紗光香華山静一煌月苑舟栄晶香華山虹進藍子月理 子花照紗華風光苑子駿桜蓮琇凌凰聲光コ朋泊洋翠城紀子子静桜	
「碩」「茅」「」浅巍八校唯藏晏自「」寿杉聖「」上「」長伊八笠央「」大「」笠国「」玄曉珠「」玄長八右「」長「」富文玄富「」 雲 野 間山南花心 墓産 台 尾 翠雜戸原 阪 原府 黙泉紅 默翠戸文 翠 賀化成貴	
泰欽峰美志朋莉蓉祥美冬艶聰梅泰清昭美訪無桜康康康暎景響玉彩泰桂敬萌泰泰泰泰景玄奏和春泉珠清五天幸紀玄梢聰莉華陽舟素重泰 患	
雄造弦子豐苑杏光映麗雅子子秀慧遠子悠泉双蘭惠清沙螢光光光翠香慶雪玉咲帛桂城穹仙虛絢峰意志遊玄福意惠光凜陽光光英景龍舟子寿	
杉「」桺玄宝新「」桺巍産「」桺「」巍染「」巍染「」桺瀬川「」妻六雅竹「」正 八「」沙萌「」映「」水柏松「」映文小「」皓「」瀬「」雅 森成春星 森山吉 森 山書 山書 森戸 科会 華 桂 南 羅象 心 代芳 心化川 花 戸	
初天哲優穆裕多英小茜京廣聖彩星小信松晨恭美勇溥劍光心暁春春美雅理花と陽祥白穗花綾静映映隆祥我真映映清流ミ皓梗典竹喜一五雅雅 美 夜 患 よ 佐 さ	
泉妙山華舟美子遼琴英春山嶽紅子翠沙雪影茜山山山鈴汀清瑠子香香峰子虹菊羊羊羊素穂笙雪月山子祥芳節溪と雲花子心春風代春映	
「長秦八東」神「」柏星映「」瀬「」茅皓「」一央「」桺 「」錦「」飯「」書「」桐「」董青蒼「」船源「」照「」青「」苑六龍「」右飯「」 翠野南根 芳 心 戸 野花 路2 森 黃 田 集 生 雲穹 橋創 澤 雲 会文 文山	
琇樹芳新紅賢整彩己智徑友草弘暁正翔智花好光好素陽錦錦成菁實完愛谿テ涛秀翠翠純妍敬裕澄照知明由澄美朋紗梢松惠静明龍採 江 輝 ル 美 恵 美	
光光月子雪山子雲芳子石華松梅竹子道純子園天重山風子葉雪華翠子領祥子翠陽桐真彩象子子好和雪竹子子実惠琴菜子章光雲花	
「玄」中「」長「」南「」富中「」玄松国「」若「」足春神北遊南「」文「」足八「」春文蒲「」有春「」霞「」東桺霞奈東蒲伊霞新「」磯 心 勢 寿 武 士勢 心風府 駒 羽玖奈府 墓 化 羽南 玖化田 象玖象 墓 陽森根墨華陽田奈墨城 迴	
和真桂桂寿麻寿陽寿秋美桂翔玄千笙美真久美佐節榎隼遊南虹節 照萩千錦曉文花麗千有雪晨見江暉明夕善千典康溪摩葉葉葉葉葉葉 由 美 美智智 恵	
雄美耀美香敬子蘭笙煌代穗舞峯穗秋仙美花惠子代真泉山嘉岳芝麗 陽泉代風麗子庭節美霞堂紹惠山宏霞子苑子絹霞紀明園桂楓梢蕉苑米	

小皓衫「笠勝華美倭乙亥若富玄」 柏帶「東座有長サ高玄龍柏若源一皓杉雅光さ国」 「華大巍倭玄八須」 奈富八柏優秀京麗八沙柏小小平花 原木雪二 訓曲心竹樸櫻特心中の陽吉象寿ノ風獄文芳松創路花 丘わ府 雪象山 燐戸坂 特華貴潮心生雪都墨南羅芳光平
羽坂室伊歌後長刈鷺永吉越小石泉原級飯山橋林大歌柴丸小松紗心加宮鈴清野玉友村保村鳴染小加齊坂田青級統濱小田大井小西南富荻浅山山腰原藤田藤谷込谷瀬里川野橋さ誠 島田爪早村 寿子林澤 藤本木水田野山谷吉原谷口藤山本名木 名林中嶋上森島真崎原野中淳儀那鈴円豊川加美智め裕澤安ら子 真あ里苗し節雅い真茂恵舟穂仁香由三カと直緝望瀬紀夏里理ゆ部薰 旺千陽惠瞳典昌美知則千昇真
文桜こ千新「秀有志右沙柏珠飯石大華書茜富若 書磯」 中游富星曉小珠帶桙大小唯倭京中若三コサ若愛若 富こ綾千「玄霞」 秀志曉茅化森の曲城 雪象摩文羅芳悠田峯阪雪集 土松2集辺 野墨士 月光悠中森 阪平心 都野竹池のノ竹心竹1貴の華曲 横墨 雪摩月野
大湯松保重田河越山菊対竹高安柵吉五橋坂高東級石酒中中真米根阿中岡田奥清瀬藤今赤中永佐渕平相鬼上級奥高小安穴堀桜中田倉唐小橋田本井松川辺谷本池中田田原村十野口橋岡 川井鳩谷里田本部島田名原野田井浪坂野泉藤 田山原十原 崎橋渕藤原内井田川谷木池信坂綾均千緩貞信伊光曉愛ゆ完文久嵐祥有貞香 静尚ル美奈瀬和遙眞八田松真京貞裕裁恵静舞風晶慶由加京 と智千由義里晨希良曉あ
桜皓大華大琥須汀中秀玄曉小皓大 「笠曉靜華唯笠」 大柏高大八秀新長秋星暁瀬笠星秀 信新船秀曉珠一皓華「美琥光桃大赤土若八森花阪雪象山坂楓雪雲月光花象5 原華 雪心原 井芳社淀南雪城寿川 戸華原 雪4 大城橋雪月悠路花雪 菜山丘井内石手筆竹南3
堀二芦齐渕富植清八望周木北田級山市福蒲中古河赤池羽清道山熊神淺市生林松塙田佐級中松神松宮鶴渡脇門森大柏酒本山宮藤嬌柄落級内ツ木田木谷野澤村木水月吳村村中 村川田原畑木西近田田水喜本澤林田村石梨島原村々 澤原谷井部田部口脇美橋崎井島本下田 澤合み寺ひ祐和洋澄明美あ清姫碧瑠百 優沙智美麻恵玲恵龍彩正詩ひ桃と友洋香晴朝光木 博美美真曉鮎花梢里希明富秀千幸如美貌悦早
富富富大笠柏皓光備 '' 大松中花茜 '' 有淺長静李秀備笠花中り書大美 '' 中玄秀玄大長若 带大秋玄紅蒼長秀四 '' 曉高有 '' 溪照士 淀原芳原 丘後 阪戸野象 虹間 野光雪後原雲野ん集手元 央模像竹穹寿雪谷 月社月 沢
河岩岸寺中福加上林圓川近松吉大今金高山本吉坂鈴原武植小松峠石湯早三伊沙伊仲鉢鈴豊宇笠真級 美塚野高下山寿桑高藤後笛加森小佐野澤本木西川藤條愛藤上藤田井住井子橋田間田俊木露居村柳本比井澤本川浦藤 藤田川木原田井由 惠越沢橋垣本、島杉平澤川藤内田藤有和早三住順悠和友ア司美彩恵千美さ健彩哉美子典元水奈佐和弘瑠桃朋友蘭ア歩梨納由川瑞美 采卓真愛香豊優朱瑞悠里麻佳紀
唯大笠一小柏中 '' 大長文秀サ秀美東錦光聖大若葉李 光玄大有上硯華笠一小晴大 '' 秀新茜神備観一光柏静久文優秀 '' 四水柏華富名 带心手原路光芳勢 淀野花雪ノ雪一銀丘 手宮月光8 丘黙阪象尾扇雪原路光美淀 雪城 奈後扇路丘芳翠喜化生雪 谷代方雪貴東7中
聰三吉菊竹浦泉柱岩手山桑山間複久齊水賓藤增吉金級 高豊落永竹黄小寺森井石緒大原小浅内柳今佐古大伊高生川今渡藤水真安宮大級 磐塙澤地内田谷本澤塙崎島下中本保藤野河田原原子 橋島合井村海暮島慶上澤方井田比野野武井藤谷園勢橋野合國辺音野篠郷崎津子桂奈幸美良恵興敦を由花由利花美弘多美靖原佳東永龍 裕美良靖楓瑠千千子と卓尚宣彩賞實由和優暎麻多崎松智沼真惠真彩良ひ幾伸勝
巍巍若笠 '' 玄華淡大巍倭「葉乙」 美玄富北紅有春玄船棒 '' サ京須ハ '' 澪六麗富大水 高段長熊田弓佐児川宮秦門笠田青植池白吉照上申中歌姫蒼神林友伊星典木鉢水日々水布折鹿高藤段筆
山準阪松宮原 嶽雪間象山 月訓 墨黙貴府竹象玖心橋森 ノ都坂南 戸会墨貴阪代五硬 平曉倚磯長有大東た「硯」葉月成月雲辺寿穂阪根け扇
橋野中削藤玉口川み脇原村 田田井 池 原口野村 野 谷佳リ藤野 下木野比野田笠島橋牧恭 汀珠満千梗泰瑞琉ち萬明懐沙靖和美春哲子草藍内美節千峯美蓮江と早楓美し美野勝恭琴天耀隆
倭葉相花野伊城新サ志若心光笠 '' 大倭 華相紅中 '' 秀京 '' 源 '' 杉さ '' 若游 大 さ 魏「葉靜書玄久城聖石大有游 '' 伊南船 '' 秀龍靜六さ月模象辺墨彩城ンモ松和丘原 阪 準雪模雪勢 雪都 創 わ 竹墨 阪四わ山 月 集心喜彩 峯阪象墨 奈 橋 雪文 会わ
小平松本櫻湯日志松福小西加百大宮沖段 大大吉川耀保齊澄岡山木桿小小佐木大片段 丸林衣渡麻熊小中平宮西大宗森黒林渡測有石清佐平清 磯野本間本澤置賀田岡田沢藤瀬村田真 川菅良原百坂藤 江本村原林野藤村津岡 山田 辻生田山谷田下嶋井形島田か部上田川水藤井水典琴正あ淳真倫世真貞由由政雅波由由 めレ紅田合美伊子邑明曉節早澤舞友忍珠 桃翠利陽暉勇男美真藍洋灑麗美菜お福千菊欽信竹ふ桐
溪若一「瀬皓光さ和」石名霧玄 央 一船宵秀京三聖峰信若 石若巍倭信瑞長玄桜春「船雅聖」勝若游 倭嵐書玄有桐サ飯光雅華若 華月松路 戸花丘わ 峯東訪默 準葉橋月雪都林 大松2松峯山 大祥翠心森玖 橋 木竹墨準 山集心象生ン丘田 雪宮三雪
森加一磯林西酒丸松音野大都影戸西段佐中増田渡青官山宿衆段 加杉峯齊万名小真宮金飯大清植山後上赤段 殿鉢佐井村木石吉鉢安櫻竹段 土内藤糸村梨岡井山本原澤津竹山田湯 藤村田川辺野下久田 藤崎村山 林島沢藤田橋水原崎藤野井 知屋島上本村橋川木藤谷前屋麻和ひ香結秀正孝節高伸舒浜碧齊 里友昌美由竹美賀間八 翁翠伊里洋夢亥津雅裕岳雅浩晶豔裕恵 子千大美奈澄美成裕雅あ梗 恵
葉嵐曉静秋弦磯横中秀り瀬雅 '' 聖名大東秀名 若八華倭嵐長游若 '' 船桃宵 '' 秀若珠飯光聖練書中八皓茜 華大巍長着新船秀麗月山華翠成川辺横浜勢雪谷ん戸 東阪根雪東準竹潮雪 素墨駒 橋井月 雪松悠田丘 木馬之央潮花 初雪象山野穹城橋雪墨
鈴増池小朴松酒高森辻田高早伊玉西宮坂諷林秋 熊戸中染鷺増荒青真菊棍本佐甘井河谷高三川宮田吉石平持岡坂段 五小須拂井和後簇西木井野林 村井橋震岡川彬川藤井村川野訪珠 渚切 川谷合井木 田谷島田中上辺遙田和口下部田原野田口 十口田澤上田藤田島敏久佑輝山希尚真英啓緩優桃道カ奈萌明彩恰河 言 心美紀美弥優由花佳理千堂惠典真華ゆ実留溪恭真幸彩美み有 嵐夏美秀真彩舞泰美
松李大 '' '' 華雅御山船正 大瀬 '' 秀神小華倭富山 '' 玄船 '' 秀サ珠桙皓石文玄小 濑小小新磯花信神美乙 '' 唯珠光さ上名サ山 游'' 華東戸光象 雪 牧愛橋桂1阪戸 雪奈平雪 貴愛 横橋 雪ノ悠森花峯化嶽平特戸平光城辺象大林菜訓 心悠丘わ尾東ノ愛特墨 雪陽
金飯田安斎村森原貞絆滝川級 吉加小熊内藤門赤小大穴濱高中間丸岡奥清唐川長山級 安山中木井本中酒森永古今鶴友村竹林平佐級 神村鳴林子塚中部木田本口 谷田端 井藤百澤野井脇堀柴榎原田橋田中子田原水津久岐下 藤中島内上間澤井美瀆本浪田野山竜山 岩吉原早千亮百ひ祐智み佳月紀紗 美富合ひ由京里裁清茂義美美希い八絆由由保喜子 貞真日葉健博和希智裕鮎和直楓矢慶瑞 福禮望潔苗
「千横蔵大」 '' '' 秀若 '' 小瀬聖城書大難練 曹松蒼優便舟須彌小瀬國「大和富船若玄曉李 舒松大名和」皓大溪高 '' 晴京サ秀船茜芙蓉 池浜田 雪松 光 戸 彩集阪翠馬3集翠戸穹生橋虹坂 川戸府 手 土橋松樺華光2 央阪東 花井月社 月都ノ雪橋 五
小吉鈴淺中原松今柳加西木藤松宮清富吉内兒 橋大高間大伊坂富上流松芝藤久大高石東蛇松小級 萩伊濱未田北2赤小篠後唐中石桑小吉高林里木野島田本國澤藤川村沢原澤田山村玉野池橋宮嶋月後澤條 原景田保森橋曾岡川島柳 原藤田島村ノ近川藤木野出島山田橋愛め久裕咲彩奈真円穂原智和太カ真和久浩利 祥久美順暁晴哉澄梅溪富泉祐淳真根香梨晴水 亜真椋靜瑠寺佐佳悠瑞恵桂豊華彩壺
巍畫富竹光秀書長 葉穂有八長花玄富八正 山富秀葉「秀竹大千秋小大」 御小秀倭美 美国晴愛華蒼游船山「御石 千国」 華大神8山集貴華丘雪集野7月邊虹南翠野雲點貴南桂6愛士雪月 雪華阪曲川光坂 牧光雪 墓5 菜府美心雪川穹墨橋愛 牧峯4曲府 雪象林新
級清石濱柿古鈴三杏 級柴葉穂八聰永寺稻奥中花級 竹河大知松佐伊落安野山芦貞芳菊八石小級 鶴保石鬼森市間長神長鐘貞門級 青景小太宇倉川名沼谷木浦 崎 木木 泉澤岡崎村 川野井 井々藤合藤沢田田 地木原森 岡谷澤十清村宮竹谷井 原木 蓼田田科茜静千有麻納明静 修紫美光靜弘栄と美峰 真有真良木優良由卓成い泉苑美並律朱 和緝卓加石友花雅萌裕洞翠文 直仙千弥川豊
山松杉八有富上有倭靜平 「御」 静 大飯石倭大央聖瀬衫巍丸 曹書茜晏青覗長有浅玄黙靜 爱戸 潮象士尾象 成中小牧 象田峯 曜 戸 山 集 墓雲 野象間黙山 条 隅
奥春西会庄玉長有林山宇 學 鐘秀遊佳恵三瑞綠壯西花竹採林禾谿豁泰竹硯恒香蓉光貞玲 幅 意 野田野田木谷泉田田 部 和 潤 田
澄若月汐り美舞咲和遼川 洞峰心影芳実月水山齊瑠心花翠苑祥聲沙慧虹心静空光紗松秀

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

第33回 成田山全国競書大会

青少年に心の安らぎを与え、豊かな情操を養うことを願い



作品募集期間／平成29年1月25日～同31日

主 催：成田山全国競書大会実行委員会

後 援：中国書法家協会／中国大使館／読売新聞社

お問合せ 成田山全国競書大会実行委員会事務総局

TEL 0476-24-2017(直通) FAX 0476-24-2084

ホームページ <http://www.naritasan-kyosho.jp>

◆ 読売書法展表彰式・祝賀懇親会

第33回読売書法展表彰式・祝賀懇親会が、去る八月二十日(土)「ザ・プリンスパークタワー東京」で開催されました。正午からコンベンションホールにおいて、全国各地から出席した読売

大賞・準大賞(理事から選出)、読売新聞社賞・読売俊英賞(幹事から選出)、読売奨励賞(評議員から選出)、特選(会友・公募から選出)の各

受賞者を対象として中央表彰式が、その後秀逸受賞者・入選者を対象とした東京展表彰式がそれぞれ開催されました。

この後二時三十分からボーリルームにおいて入選入賞者と役員など、出席者三千余名の盛大な祝賀懇親会がおこなわれました。本会からも多数の係・入賞入選者が出席しました。

◆ 夏季合宿鍊成会

恒例の合宿鍊成会は、去る八月七日(日)～九日(火)の二泊三日、静岡県浜松市で開催されました。会場となつた「浜名湖ロイヤルホテル」の懇切なご協力を得て、スタッフ関係者を含めて百二十名の大所帯が生活を共にする三日間は、大変貴重な体験でした。全国各地から参加した会員は、六グループにわかつて鍊成を行い、本部員指導者の熱心な指導を受けて目覚しく実力が向上しました。詳細は次号に紹介いたします。

《書展予告》

☆ 第38回書象土曜会展

会期 十月五日(水)～九日(日)

会場 銀座・大黒屋ギャラリー六階

☆ 第7回高風書道会展

(併催 北藤煌香書作展)

会期 十月八日(金)～十一日(月・祝)

会場 谷口文栄堂ギャラリー

主宰 畑中高山

☆ 第11回藤岡月華書展

会期 十月十日(月)～十五日(土)
会場 新井画廊

中央区銀座七一十八
第五太陽ビル一階

氏名	発行人	(有)書象
印 刷 所	代 表	上 條 節
株 式 会 社	東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三一六	夫 象
リ ン ク ス	郵便番号	180-0001
象	振替口座	○○一九〇一七一二五六九一
	振替名義	(有)書象